

大崎市環境の状況に関する報告書

(令和4年度の取り組み)



令和5年10月

大崎市

目 次

1. 第2次大崎市環境基本計画の概要	P 2 ～ 5
2. アクションプランとは	P 6
3. アクションプランの取り組み状況	P 7 ～ 5 0
(1) 自然環境：誰もが誇れる自然環境をみんなで守る	
(2) 快適環境：心の豊かさを感じる快適環境を創る	
(3) 生活環境：安全・安心な暮らしを支える	
生活環境を確保する	
(4) 地球環境：地球に暮らす一員として行動し、	
地球環境を思いやる	
(5) 市民参画・協働：世代を超えて環境を学び、伝える	
4. 参考資料（気温、降水量等）	P 5 1 ～ 5 7

第2次大崎市環境基本計画の概要

- 1 基本的事項
- 2 計画の目標
- 3 基本的な方針及び施策（施策体系図参照）
- 4 環境配慮指針
- 5 計画の推進と進行管理

.....

望ましい環境像



第2次大崎市環境基本計画の概要

1 基本的事項

【計画の位置付け】

環境基本計画は、環境基本条例の基本理念にのっとり良好な環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定し、「第2次大崎市総合計画」を上位計画とした環境分野の基本計画として位置づけています。また、国及び県、市の各種計画との整合を図っています。

【計画期間】

計画の期間は、令和2年度から令和11年度としています。

【推進主体】

環境基本計画の推進に向けて、市民、事業者及び市の各主体が、それぞれの役割を分担して、協働で取り組みを進めていくこととしています。

2 計画の目標

【望ましい環境像】

豊かな自然や田園環境の中で人と自然が共に生き、健康的で持続可能な循環・共生型の社会の実現を目指す

【環境目標】

計画は、市民にとってわかりやすい計画で、かつ望ましい環境像を実現するため、対象となる環境の範囲と対応した体系として、環境分野（自然環境、快適環境、生活環境、地球環境、市民参画・協働）毎に目標を設定しています。

また、10年後の目標を達成することで、関連するSDGsの目標の達成に貢献しています。

- (1) 誰もが誇れる自然環境をみんなで守る【自然環境】
- (2) 心の豊かさを感じる快適環境を創る【快適環境】
- (3) 安全・安心な暮らしを支える生活環境を確保する【生活環境】
- (4) 地球に暮らす一員として行動し、地球環境を思いやる【地球環境】
- (5) 世代を超えて環境を学び、伝える【市民参画・協働】

3 基本的な方針及び施策 ※施策体系図参照

望ましい環境像や、環境分野ごとに10年後の目標を実現していくための基本的な方針、各方針に沿った具体的な施策を示しています。

4 環境配慮指針

自然的、社会的、経済的条件や土地の形状等の特性を考慮して、「田園地域」と「山間地域」の2つの地域区分に加え、特徴的な土地利用を進めて行く区域として、「広域交流拠点ゾーン」「地域生活拠点ゾーン」「自然環境保全ゾーン」を設定し、地域別・ゾーン別と「市民」「事業者」「市」の主体別の環境配慮指針を設定しています。

5 計画の推進と進捗管理

【計画の推進】

（１）環境審議会

大崎市環境審議会は、大崎市環境基本条例第25条の規定に基づき、学識経験者などにより構成される組織です。市長の諮問に応じ、環境基本計画の策定及び変更に関する事項について審議を行うとともに、環境の保全及び創造に関する施策の推進について助言及び提言を行います。

（２）庁内組織

市は、施策の総合的な調整と推進を図るための庁内組織を中心として、各担当課を含む体制を整えます。

施策の総合的かつ計画的な推進のため、施策の進捗状況の点検・評価を行い、担当課間との調整・連携を図ります。

（３）協働による取り組みの推進

市民、事業者による自主的な活動や各主体の協働による取り組みが円滑に推進されるように、施策の実施と環境配慮指針の周知・浸透を図ります。

また、各主体の協働体制づくりを図っていくものとし、当面の期間において、市民及び事業者は自主的な活動の立ち上げと活動内容の充実を図る一方、市はこれらの自主的な活動に対する情報やノウハウの提供などを展開していくものとします。

（４）国・県・他地域との連携

大気汚染や水質汚濁、地球環境問題など広域的な取り組みが求められる課題への対応について、国や県、他地域と緊密な連携を図りながら、広域的な視点から環境施策に取り組めます。

【計画の進捗管理】

本計画の進捗管理は、計画（Plan）、実施（Do）、点検・評価（Check）、見直し（Action）のサイクルにより、施策の進捗状況を毎年度点検・評価し、その結果を「環境の状況に関する報告書」としてとりまとめ、公表します。その結果を踏まえ、アクションプランについて毎年度見直しを行い、必要に応じて本計画の見直しを行うものとします。



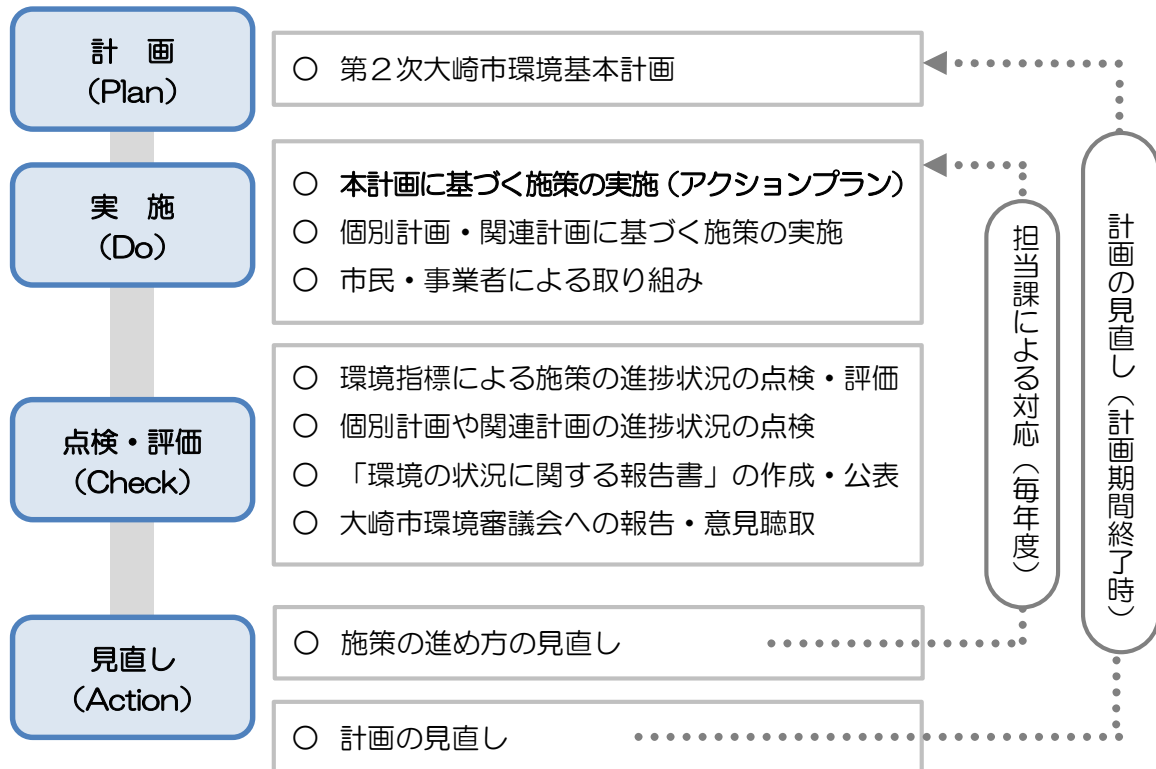
アクションプランとは

【アクションプランの目的】

「アクションプラン」とは、第2次大崎市環境基本計画に基づく施策の着実な推進を図るため、市民・事業者・市の各主体が、それぞれの役割を分担し、協働しながら、日々の生活において実際に取り組んでいく具体的な取り組みを示したものです。

「基本的な方針及び施策」では、望ましい環境像や環境分野ごとに、10年後の目標を設定し、具体的な施策を示しています。また、「計画の推進と進行管理」では、施策を実施するための“アクションプラン”を策定し、取り組みを毎年度、見直すことにしています。

～ 第2次大崎市環境基本計画の進行管理 ～



【アクションプランの内容】

アクションプランに掲載する事業は、各環境分野の施策の方向ごとに、目標を達成するための具体的な取り組み内容や成果指標を記載することとしています。

成果指標については、イベントなどを継続していくことを目標とする取り組みについては「継続」とし、実績値はあるが、人口減少などにより変動するものや現状を維持していくことを目標とする取り組みについては「維持」と記載しています。また、方向性を目標としている取り組みについては、「増加」や「減少」と記載しています。

アクションプランの取り組み状況

5つの環境分野毎に、「取り組み項目」「成果指標」「所見」を表記しています。

【成果指標の見かた】

1. 取り組み項目

担当課：〇〇〇課

成果指標：__成果の指標とする事項__

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
最新の目標値					下記の 基準

所見：①評価の理由 個別計画や年次の状況に応じて取り組んだ結果について記載

②今後の進め方 目標値までの進め方や考え方について記載

○評価の判定基準

評価の判定基準	判定
取り組み状況が進歩・良好に維持できている・個別計画どおりの進捗	○
大きな変化がない・多少の減少・個別計画より多少遅延	□
取組み状況が後退・大きく減少・個別計画より大きく遅延	△

<評価判定の参考例>

（参考1）単年度の達成数値を目標としているもの

成果指標：__〇〇件数__

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100件/年	60件/年	70件/年	65件/年	75件/年	□

○・・・目標値を達成。（概ね80%達成）

□・・・増加・維持しているが、目標値未達成。（概ね50%以上～80%未満）

△・・・減少しており、目標値未達成。（概ね50%以下）

(参考2) 最終年度の達成数値を目標としているもの

成果指標： 〇〇整備率

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	60%	65%	70%	75%	○

○・・・個別計画どおりに進捗できた。(年次進捗率：概ね80%達成)

□・・・個別計画より一部遅れた。(年次進捗率：概ね50%以上～80%未満)

△・・・個別計画より大きく遅れた。(年次進捗率：概ね50%以下)

(※個別計画における進捗状況を「所見 ①評価の理由」に記載。)

(参考3) 参加人数や回数を目標としているもの

成果指標： 〇〇参加者数

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
1,000人	600人	0人	100人	200人	□

○・・・参加者数が大きく増えた。または目標値を達成。

□・・・参加者数に大きな変化がなく、目標値未達成。

(新型コロナウイルス感染症の影響により、制限をかけて実施したため、目標値に及ばなかった。)

△・・・参加者数が増加せず、目標値未達成。

(新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。)

(参考4) イベントなどを継続していくことを目標とするもの

成果指標： 〇〇運動

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	2回/年	0回/年	0回/年	2回/年	○

○・・・計画どおり実施できた

□・・・計画したが、一部実施にとどまった。

△・・・計画したが、実施できなかった。または計画できなかった。

【環境分野別の評価一覧】

年 度	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
環境分野 \ 評価	○	□	△	○	□	△	○	□	△
自然環境	1 1	7	4	1 2	4	6	1 2	5	5
快適環境	6	5	2	6	5	3	6	6	2
生活環境	1 1	5	1	1 2	4	1	1 6	1	0
地球環境	8	6	5	8	6	5	8	1 1	0
市民参画・協働	1 1	1	7	1 0	3	6	1 6	3	2
計	4 7	2 4	1 9	4 8	2 2	2 1	5 8	2 6	9

※次のページから各分野ごとに取組状況を記載しています。

（１）【自然環境】誰もが誇れる自然環境をみんなで守る

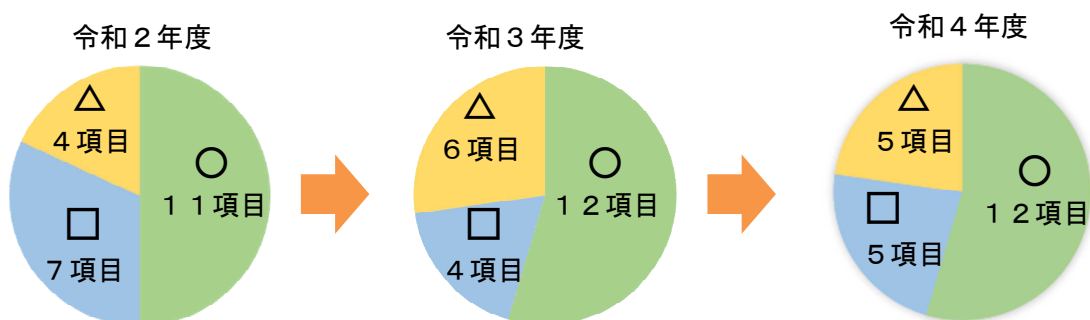
【10年後の目標】

- ・西部一体に広がる栗駒国定公園やラムサール条約湿地，「蕪栗沼・周辺水田」「化女沼」に代表される優れた自然環境が市民や来訪者の活動により保全されている。
- ・四季の移ろいや時間とともに変化する美しい自然環境が保たれている。
- ・数多くの里地里山を支える農林業や農地・森林を保全する活動等が活発に行われている。
- ・貴重な動植物，生物多様性を育むさまざまな形態の自然を守り，育てる活動が活発に行われている。

関連するSDGs目標



【成果指標の評価】



【所見】

「自然環境」分野では，特色ある豊かな自然や持続的な農村環境，森林の保全等について，NPOや地域の団体との協働により，良好な保全と利活用を図ることができました。

野生鳥獣の管理については，近年有害鳥獣による被害が深刻化していることから，引き続き，人間と野生生物の共存する環境の実現に向けた取り組みが必要です。

参加人数や実施回数を成果指標としている事業については，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，定員を絞るなどの方法で実施したほか，一部では行動制限緩和の動きを受け，回復傾向が見られており，今後も工夫した取り組みにより活動促進につなげていきます。

① 特色ある豊かな自然環境の保全

1. ラムサール条約湿地及びその周辺の里地里山を含めた環境を保全するため、野火の実施や外来魚の駆除を行い、ガン類のねぐら環境の維持を図ります。

担当課：農政企画課・田尻総合支所地域振興課

成果指標： ふゆみずたんぼ取組面積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	18ha	10ha	13ha	14ha	□

所見：①評価の理由 冬期湛水に必要な圃場整備が完遂していない圃場がありましたが、令和3年度より実施面積は増加しました。

②今後の進め方 引き続き地域の生産組合と連携し、付加価値を付けた米づくりの実践とガン類のねぐら環境を維持していきます。

2. ラムサール条約湿地の保全活用に関わるNPO法人等と連携して、環境教育ゾーンを維持管理し、普及啓発イベントを実施します。

担当課：農政企画課

成果指標： ラムサール条約湿地の保全活用に係るイベント回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
6回	6回	6回	3回	1回	△

所見：①評価の理由 化女沼湿地・里山ボランティアによる維持管理作業を1回実施しました。

②今後の進め方 新型コロナウイルス感染症の影響により、回数等を制限して実施しましたが、今後もイベントの開催方法等を工夫しながら実施していきます。

3. 「蕪栗沼・周辺水田」を保全し、環境教育活動の推進を図るため、マガンの里推進事業として、自然観察バスを市内の学校やNPO法人等が行う自然観察ツアーに提供します。

担当課：田尻総合支所地域振興課

成果指標： おおさき自然観察バスの運行回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
25回	22回	22回	30回	24回	□

所見：①評価の理由 おおさき自然観察バスを市内の学校やNPO法人等が行う世界農業遺産等の自然観察ツアーに提供しました。

②今後の進め方 世界農業遺産と連携しながら、環境教育活動の推進を図っていきます。

② 持続可能な農村環境の保全

1. 地球温暖化防止や生物多様性の保全に積極的に貢献する、「環境保全型農業」に取り組む農業者を支援します。

担当課：農政企画課

成果指標：環境保全型農業直接支払交付金事業取組面積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	1,329 ha	1,177 ha	1,166 ha	1,006 ha	△

所見：①評価の理由 昨年度の面積より減少しましたが、21団体282名が減農薬・減化学肥料での栽培に取り組み、地球温暖化と生物多様性保全への継続的支援が図られました。

②今後の進め方 制度の広い周知を徹底し、自然環境に配慮した栽培を実践することにより、高付加価値を生み出せるよう推進します。

2. 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進します。

担当課：農村環境整備課

成果指標：多面的機能支払交付金事業農用地内の認定面積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	10,073 ha	10,219 ha	10,246 ha	10,287 ha	○

所見：①評価の理由 令和4年度は活動組織の増により面積が増加し、地域共同で農村環境保全への取り組みの推進が図られました。

②今後の進め方 今後も地域共同による農村環境保全の更なる取り組みの推進を図っていきます。

3. 中山間地域において農業生産条件の不利を補正することにより、将来に向けて農業生産活動を維持するための活動を支援します。

担当課：農村環境整備課

成果指標：中山間地域等直接支払交付金事業実施組織数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	12 集落 (87ha)	12 集落 (87ha)	12 集落 (89ha)	12 集落 (89ha)	○

所見：①評価の理由 令和2年度から中山間地域等直接支払制度第5期対策が始まり、「集落戦略の作成」が10割交付要件となりました。令和4年度現在、10割交付単価に取り組む集落協定は10件となっています。

②今後の進め方 今後も農業の生産条件が不利な中山間地域等での農業生産活動を維持出来るよう、支援を継続していきます。

4.「大崎耕土」に対する誇りの醸成を図るため、語り部育成の推進により世界農業遺産の知恵を継承します。

担当課：農政企画課

成果指標：世界農業遺産の知恵を継承する語り部育成人数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
50人	—人	12人	48人	142人	○

所見：①評価の理由 市内公民館のほか、美里町及び色麻町公民館と連携し、大崎地域全域で語り部の育成に繋がる講座を開催しました。市内公民館：107人参加（7回開催）、美里町及び色麻町公民館35人参加（2回開催）

②今後の進め方 市民向けの研修会の開催や、公民館における研修会などの開催支援を通し、語り部の育成に繋がる取り組みを進めていきます。

③ 森林の保全・活用

1. 森林の有する多面的な機能を発揮させるため、適正な森林整備を図ります。

担当課：農村環境整備課

成果指標：森林経営計画の計画数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
45件	23件	14件	16件	14件	△

所見：①評価の理由 5年を1期とする森林経営計画は、期間の満了などから14件に減少しましたが、まとまりのある森林の効率的な施業及び保護が図られています。

②今後の進め方 森林の持つ多面的機能を発揮させるためにも、森林所有者等に対し計画の策定を推進していきます。

成果指標：森林経営計画の認定面積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
9,100 ha	5,857 ha	6,476 ha	7,015 ha	6,947 ha	○

所見：①評価の理由 認定面積は前年度と横ばいとなり、まとまりのある森林の効率的な施業及び保護が図られています。

②今後の進め方 森林の持つ多面的機能を発揮させるためにも、森林所有者等に対し計画の策定を推進していきます。

成果指標：市産材の使用材積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	242 m ³ /年	279 m ³ /年	290 m ³ /年	330 m ³ /年	○

所見：①評価の理由 市産材の木造住宅の普及に繋がり、地域の林業振興及び木材産業の活性化につながっています。

②今後の進め方 二酸化炭素の固定による公益的機能の発揮やカーボンニュートラルの実現に寄与することから、木材利用の更なる拡大を図る必要があります。

2. 成熟期を迎えた人工林の再造林から保育施業の森林のサイクルを維持するため、林業事業体が行う森林整備（造林，下刈，除伐，間伐）を支援します。

担当課：農村環境整備課

成果指標：里山林再生事業補助金交付件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	18 件/年	26 件/年	31 件/年	23 件/年	○

所見：①評価の理由 9 事業体による補助制度の活用により森林整備（造林，下刈，除伐，間伐）の促進が図られました。

②今後の進め方 施業放棄の解消と森林の多面的機能を発揮させていくためには、施業を実施する林業事業体の経営安定化を図る必要があります、引き続き支援が必要となります。

3. 森林の保全のため、マツ枯れやナラ枯れ被害木の伐採等を行い、森林病虫害の防除に努めます。また、竹害の拡大を防止するため、放置竹林の整備等を支援します。

担当課：農村環境整備課

成果指標：防除材積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	15.44 m ³ /年	18.11 m ³ /年	11.82 m ³ /年	12.14 m ³ /年	△

所見：①評価の理由 松くい虫やナラ枯れ被害の拡大を最小限に食い止めるため、被害木の伐倒駆除，薬剤樹幹注入等を実施しました。

②今後の進め方 森林資源としての重要性から徹底した駆除・予防を図る必要があります。

4. “おおさき地域材”を使用する木造住宅の普及を拡大するため、地域材を活用した新築木造住宅へ支援します。

担当課：農村環境整備課

成果指標： 助成対象者

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	15人／年	17人／年	18人／年	21人／年	○

所見：①評価の理由 建築会社等へのPRを実施し、利用者の増加と市産材の利用拡大を図りました。市産材の木造住宅の普及と地域の林業振興及び木材産業の活性化につながっています。

②今後の進め方 二酸化炭素の固定による公益的機能の発揮やカーボンニュートラルの実現に寄与することから、木材利用の更なる拡大を図る必要があります。

5. 大崎耕土に「潤い」をもたらす水源地域の森林を保全し、森林への理解を深めるため、市民参加型の植樹事業を行います。

担当課：農村環境整備課

成果指標： 市民の森づくり推進事業植栽参加者人数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	162人／年	0人／年	107人／年	179人／年	○

所見：①評価の理由 森林資源の保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全を図るため、市民の森づくりや企業のCSR活動など協働の森づくりに取り組みました。

②今後の進め方 森林保全への市民の理解を深め、広める取り組みを推進していきます。

④ 野生鳥獣の管理

1. 有害鳥獣（イノシシ、クマ等）の侵入による農作物被害を防止するため、ソーラー電気柵導入の支援や、鳥獣被害対策実施隊員の増員を図り、ICT（情報通信技術）も活用しながら、効率的に捕獲し、個体数の調整と農作物の被害を軽減します。

担当課：農村環境整備課

成果指標： 有害鳥獣捕獲頭数（イノシシ）

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	278頭／年	690頭／年	643頭／年	373頭／年	□

所見：①評価の理由 大崎市鳥獣被害対策実施隊員の増員を図り、ICT技術を活用した捕獲を実施しました。

②今後の進め方 国の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーを講師とした研修会の開催など、隊員の安全かつ効率的な捕獲の技術向上を図る取り組みを実施していきます。

成果指標： 鳥獣被害対策実施隊員数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	117人	130人	151人	164人	○

所見：①評価の理由 年々深刻化・広域化する有害鳥獣被害に対し、狩猟免許取得者が増えていることから、猟友会と連携し実施隊員の増員を図りました。

②今後の進め方 狩猟免許試験の周知や市内公民館施設を試験会場とするなど、免許が取得しやすい環境づくりに努め、狩猟免許取得者及び実施隊員の増員を図っていきます。

成果指標： 有害鳥獣侵入防止対策ソーラー電気柵導入件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	55件／年	239件／年	116件／年	121件／年	○

所見：①評価の理由 有害鳥獣による農作物被害の軽減を図るため、被害防止対策として効果の高いソーラー電気柵について、引き続き導入を推進しました。

②今後の進め方 年々深刻化・広域化する農作物被害の対策には、農業者等へ継続して支援する必要があります。

⑤ 外来生物の防除

1. ラムサール条約湿地を中心に貴重な動植物や湿地を保全するため、特定外来生物（オオクチバス・ブルーギル）やアメリカザリガニ等の調査及び駆除を行うとともに、シナイモツゴなど地域特有の在来生物の保全活動を支援します。

担当課：農政企画課

成果指標： 「化女沼」における在来魚率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
17%	7%	10%	1%	7%	□

所見：①評価の理由 ラムサール条約湿地「化女沼」における外来生物（オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の駆除及び調査を実施しました。

②今後の進め方 在来生物の保全に向け、関係機関と連携しながら、外来生物の駆除や調査を実施していきます。

⑥ 自然とふれあえる場・機会の提供

1. 多様で豊富な自然や景観を、教育旅行や様々な体験メニューとして提供し、地域の自然環境や環境問題への関心を高めます。

担当：観光交流課

成果指標：教育旅行受け入れ人数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
2,000 人／年	565 人／年	37 人／年	211 人／年	605 人／年	○

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然、海外への教育旅行需要が停滞した一方で、国内では、ウィズコロナ・アフターコロナの気運が高まり、教育旅行受け入れ人数の増につながりました。

②今後の進め方 姉妹・友好都市との教育旅行を通じた相互交流や、海外からの教育旅行の受け入れのため、SNSによる国内外に対する情報発信や、旅行会社に対するプロモーションを展開し、更なる教育旅行受け入れ人数の増加を目指します。

2. 都市農村交流、農村体験や研修を通じて、地域の歴史や自然に親しみ、市内外に魅力的な世界農業遺産資源を周知します。

担当：農政企画課

所見：周辺町とのグリーン・ツーリズム関係、各種農村体験や農家民泊等の情報共有を図り、大人の教育旅行の受入について、共同受入の具体的な方策を検討しました。また、宮城県教育旅行ガイドブック2021のSDGs探求学習特化型プログラムに世界農業遺産「大崎耕土」のプログラムを掲載し、情報発信を行いました。教育旅行受け入れ状況1校。

3. 生物多様性の保全、活用の担い手となる児童生徒を育成するため、おおさき生きものクラブの環境学習プログラムを環境NPO法人と連携して実施します。

担当：農政企画課

成果指標：生きものクラブ延べ参加人数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
550 人／年	383 人／年	381 人／年	284 人／年	165 人／年	△

所見：①評価の理由 生きものクラブのプログラムを4回、開催しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、定員を絞って開催したため参加人数が少なくなりました。

②今後の進め方 社会状況等を考慮しながら、NPO法人等の関係団体とプログラムの回数や参加状況を調整し、実施していきます。

4. ラムサール条約湿地を活用して、生物多様性などの教育の場、観察の場として普及啓発を図ります。

担当：農政企画課

成果指標： ラムサール条約湿地における環境教育利用回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
7回／年	7回／年	6回／年	6回／年	5回／年	□

所見：①評価の理由 市民参加型の自然再生活動を実施し、教育や普及啓発の場として活用しました。

②今後の進め方 開催方法等を工夫しながら実施していきます。

5. レクリエーションの場、休養の場、自然と触れ合う場として、心に潤いを与える公園の維持管理を行います。

担当：建設課

成果指標： 公園での事故発生件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
0件／年	0件／年	1件／年	0件／年	0件／年	○

所見：①評価の理由 市民との協働による管理を取り入れながら、公園の維持管理が実施できました。

②今後の進め方 市民の憩いの場として安全で快適に利用できるよう、事故発生防止に努めながら公園の維持管理を行います。

（２）【快適環境】心の豊かさを感じる快適環境を創る

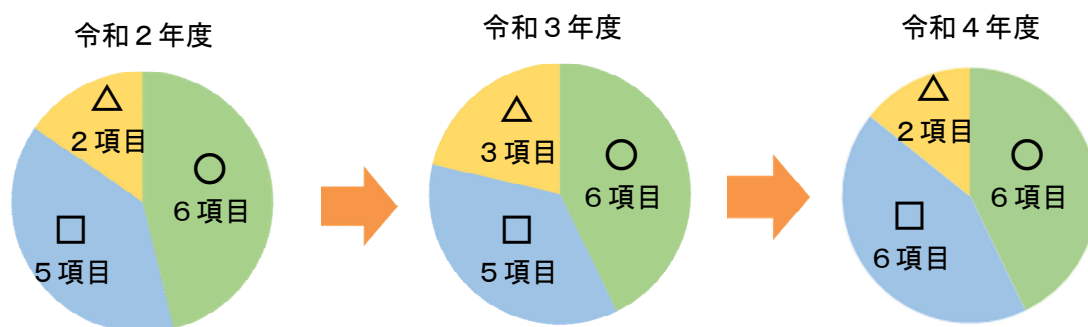
【10年後の目標】

- ・身近に感じられる緑や水辺，山間地域の自然景観，田園地域を代表する居久根（いぐね）等の田園景観，都市部の市街地景観や，歴史的な建築物や街道・史跡周辺の景観等の保全・活用が図られている。
- ・大切に保存されてきた歴史・文化遺産は，住む人の心の拠りどころとなり，郷土愛や誇り，将来への継承のための機運を醸成している。
- ・自然・歴史・文化は，農地を含め，食，健康，教育，福祉，レクリエーション等のさまざまな分野で訪れる人の心に潤いを与えている。

関連するSDGs 目標



【成果指標の評価】



【所見】

「快適環境」分野では，緒絶川周辺地区の道路環境整備工事と親水広場整備が完了するなど，本市の特色を生かした景観や環境の保全の進捗が図られました。

空き家については，適正に管理されていない空き家に関する相談件数が増加しており，今後も適切な管理，有効活用の推進に向けた取り組みの強化が必要と考えています。

また，課題となっている不法投棄は，件数が微増となっており，今後も関係団体と連携し，監視体制の強化や更なるモラルの向上へつなげていく必要があります。

① 緑や水辺の保全と創造

1. 環境負荷軽減に向けた低炭素社会を構築するため、グリーンカーテン講座を行い、ゴーヤとアサガオの苗を配付します。

担当：環境保全課

成果指標： グリーンカーテン講座の受講者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
40人／年	20人／年	20人／年	17人／年	20人／年	□

所見：①評価の理由 講座では、参加者との交流を交えながら、植え付けやネットの設置方法の説明を行いました。

②今後の進め方 今後も家庭や事業所などで、楽しみながらできる地球温暖化対策として、普及を図っていきます。

2. グリーンカーテンを設置する公共施設を増やします。

担当：環境保全課

成果指標： グリーンカーテンを設置している公共施設数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
45件	38件	34件	39件	32件	□

所見：①評価の理由 新規施設が2件増加したものの、適切な設置場所や生育にかける時間の確保が難しいことなどから、継続施設は9件減少しました。

②今後の進め方 公共施設は多くの市民が訪れるため、高い啓発効果が得られますので、引き続き設置場所の確保に努めます。

3. 化女沼の自然環境を学習する環境教育ゾーンとして、植林や湿地の再生を図り、教育の場、観察の場として普及啓発を実施します。NPOやボランティアと連携し維持管理を行います。

担当：農政企画課

所見：化女沼湿地・里山ボランティアへの登録者を中心とした市民、近隣小中学生や企業からの参画も得て、維持管理を実施しました。引き続き、市民等への呼びかけを行いながら、活動を継続していきます。

4. 蕪栗沼で野火による湿地植生の維持を行い、湿地環境を保全します。

担当：農政企画課

所見：陸地化の緩和と湿地植生の保全を図るため、3月に蕪栗沼で地元消防団・NPOと連携して野火を実施しました。

② 景観の保全と創造

1. 世界農業遺産として認められた田園景観を保全するため、居久根のある風景の保全に向けた仕組みをつくります。

担当：農政企画課

所見：令和元年度より居久根ボランティアによる管理を実施しており、令和3年度に居久根景観保全活用モデル事業補助金を創設し、地域と協働し居久根の保全を行いました。令和4年度においては、企業のCSR事業と連携して居久根の保全を行いました。

2. 景観計画の実効性を確保し、大崎市らしい良好な景観の実現を図るため、大崎市景観条例を制定します。

担当：都市計画課

所見：令和3年3月に「大崎市景観条例」を制定し、令和3年10月1日から施行しています。「大崎市景観計画」との一体的な運用を図りながら良好な景観の保全・形成に取り組んでいきます。

3. 立地適正化計画で、居住誘導区域内への居住を誘導することにより、田園地域での無秩序な開発を抑制し、美しい景観を形成している農地や森林の消失を防ぎ自然環境の維持・保全を図ります。

担当：都市計画課

所見：都市・地域中心部周辺に居住を誘導し、田園環境と調和した快適で持続可能な集約型市街地の形成を推進することで、無秩序な開発や農地・森林の消失を抑制し、美しい田園・自然環境の維持・保全を図っていきます。

4. 緒絶川周辺地区を歩いて楽しめる空間にするため、まち並みと調和する石畳風舗装や安全性を高める誘導灯を整備します。また、人々が集まり賑わいを生む親水広場を整備します。

担当：都市計画課

成果指標： 緒絶川周辺地区の道路環境整備事業進捗率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	64%	69%	80%	100%	○

所見：①評価の理由 令和4年度に道路環境整備工事と親水広場の整備が完了し、景観と調和した歩いて楽しめる高質空間の形成を図りました。

②今後の進め方 事業完了。

③ 空き家等の適切な管理，有効活用の推進

1. 空き家バンクへの登録を促し，空家の有効活用を通して定住促進により地域の活性化を図ります。

担当：環境保全課

成果指標： 空き家バンク登録件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	5件／年	13件／年	10件／年	10件／年	○

所見：①評価の理由 空き家所有者に対し，意向調査と併せてバンクの登録を促す通知を封入するなど，登録促進に努めました。また，登録物件が増えることで希望者のニーズに合った選択肢を提供できる可能性が広がりました。

②今後の進め方 引き続き，空き家相談会や出前講座等を通じて，制度の周知に努め，登録促進を図ります。

2. 適正に管理されていない空き家等が増え，生活環境や地域社会の安全・安心が脅かされないよう，所有者に改善を求めます。

担当：環境保全課

所見：現地確認後，所有者へ改善通知や電話連絡を実施し，改善が見られない場合は，訪問を行うなどして改善を求めました。随時，所有者へ適正管理を呼びかけていきます。

3. 危険な空家等の除却に要する経費について，所有者に除却費補助金を交付することで，速やかな除却を促します。

担当：環境保全課

成果指標： 危険空家等除却費補助金交付件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	9件／年	3件／年	5件／年	2件／年	△

所見：①評価の理由 相談件数は多いものの，申請に至る件数は少ない状況です。

②今後の進め方 自己資金や相続に課題を抱える方が多いことや，解体費用が上昇傾向にあることなどが理由として考えられるため，空き家相談会等を活用した個別の課題解決を支援するとともに，補助内容について検討を行います。

4. 空き家の実態調査を実施し，現状を把握したうえで，空き家の利活用や除却の戸数増加につなげます。

担当：環境保全課

成果指標： 空き家の実態調査率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	— %	100%	100%	100%	○

- 所見：①評価の理由 令和2年度の調査結果を基に、優先して危険空家等の現地確認を行いました。
- ②今後の進め方 所有者への適正管理を呼びかけながら、地域と連携して実態把握に努めます。また、令和3年度に策定した第2次大崎市空家等対策計画に基づき、発生予防と解消に向けた施策を展開し、空き家の抑制につなげていきます。

5. 居住誘導区域内の居住を推進し、都市・地域中心部の空き家の有効活用を促進します。

担当：都市計画課

所見：大崎市立地適正化計画に基づき、都市や各地域の中心部への居住の誘導により、空き家の有効活用を促進し、快適で持続可能な集約型市街地の形成を図っていきます。

6. 移住希望者の住宅確保のため、空き家の活用を図ります。

担当：建築住宅課

成果指標：計画期間内賃貸可能物件登録数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	8件	15件	15件	16件	○

所見：①評価の理由 助成制度の利用促進を図る目的で令和2年度に要綱改正を行い、令和3年度から改正後の要綱で運用しています。空き家所有者は売却を希望する傾向にあります。

②今後の進め方 引き続き、市ウェブサイト、新聞広告等を活用して制度の周知を図っていきます。

④ ごみの不法投棄対策の推進

1. 不法投棄されやすい場所に、不法投棄防止用警告看板等を設置し、不法投棄のない地域を目指します。

担当：環境保全課・各総合支所地域振興課

成果指標：不法投棄相談件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
減少	156件／年	155件／年	135件／年	137件／年	□

所見：①評価の理由 不法投棄禁止看板等の設置や公衆衛生組合等の巡回を実施していますが、件数は微増となりました。

②今後の進め方 地域の関係団体と連携してモラルの向上を図り、件数の減少につなげていきます。

⑤ 歴史・文化の保全，継承

1. 「世界農業遺産 大崎耕土」の副読本を活用し，大崎耕土に対する誇りの醸成を図ります。

担当：農政企画課

所見：副読本は，令和元年度から大崎地域1市4町の小学3～6年生の児童へ配布し，様々な教科の授業で活用されています。令和4年度は電子化を行い，市のウェブサイトへ掲載しました。また，副読本内の二次元コードを読み込むことで関連動画を見ることが可能となりました。今後も教育現場との連携を図り，現場の意見を踏まえながら，さらなる大崎耕土の教育の充実を図っていきます。

2. 国指定文化財「旧有備館および庭園」などの指定文化財を大崎市の宝として適切な保存と活用を行いながら，後世に引き継ぎます。

担当：文化財課

所見：旧有備館および庭園にて，岩出山地域の文化や歴史を知る展示会やイベント等を開催し，広く市民に紹介するとともに文化財愛護を図ることを目的に企画展を行いました。（企画展「当別伊達記念館共同企画展」「大崎八幡宮と流鏑馬的射の人々」，有備館ライトアップ等）

3. 文化財出前講座や歴史学習，講演会等へ講師を派遣し，文化財の魅力を伝え，郷土への理解と愛着をはぐくみます。

担当：文化財課

成果指標：文化財出前講座等の件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
80件／年	72件／年	46件／年	26件／年	26件／年	△

所見：①評価の理由 講師派遣・事業協力等について，派遣と協力を行いました。（出前講座6件，講師派遣19件，職場体験1件）

②今後の進め方 小・中学校の郷土史学習を支援し，公民館や図書館等の生涯学習機関と連携しながら学習の機会を提供する活動に取り組んでいきます。

4. 文化財の調査や新たな指定を行い，文化財所有者・保護団体等を支援し，文化財の保存と継承を図ります。

担当：文化財課

成果指標：新たな文化財の指定件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	1件	3件	0件	1件	○

所見：①評価の理由 無形民俗文化財としての価値が認められ，市指定文化財として指定されました。（金津流松山獅子躍）

②今後の進め方 引き続き，文化財としての価値が認められるものについて，指定に向けて調査を行っていきます。

5. 文化財の説明板や標柱の新設や修繕を行い、魅力ある地域の歴史を伝える環境づくりを行います。

担当：文化財課

成果指標：文化財説明板や標柱設置

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	359 件	370 件	374 件	377 件	○

所見：①評価の理由 文化財の理解と周知を図り、その認識と保護の普及・啓発を推進するため説明板等の新設、修繕を実施しました。(説明板：新設1件・修繕3件、標柱：新設2件・修繕2件、案内板：新設4件・修繕1件、撤去：4件)

②今後の進め方 文化財に対する認識と理解を深める目的と、適切な保存管理のため、指定文化財や埋蔵文化財等に説明板や標柱の設置を行っていきます。

6. おくのほそ道を魅力的な遊歩道として整備し、「歩こう！！おくのほそ道」を開催します。文化学習や健康づくりの場並びに観光資源として活用しながら、文化財を後世に引き継ぎます。

担当：教育部鳴子公民館

成果指標：「歩こう！！おくのほそ道」イベント開催回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	2 回	1 回	1 回	1 回	□

所見：①評価の理由 7月3日に「令和4年度歩こう！！おくのほそ道」を実施しました。市内外から10名の参加があり、講師の説明を聞きながら約7キロのコースを歩きました。

②今後の進め方 今後も広く参加者を集い、日本文学を育む環境に触れる機会を提供し、おくのほそ道の魅力を発信していきます。

7. 鳴子温泉地域の源泉を計画的に整備し、安全に安定的に温泉を供給し、温泉観光地として産業全体の振興に寄与するとともに、地域住民の健康維持等にも貢献します。

担当：鳴子総合支所地域振興課

成果指標：鳴子温泉地域の観光入込者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
253 万人 ／年	175 万人 ／年	106 万人 ／年	95 万人 ／年	115 万人 ／年	□

所見：①評価の理由 指定管理者において、源泉の維持管理を定期的に行い、温泉の安定供給に努めることで、温泉観光の推進と地域産業の振興を図りました。

②今後の進め方 引き続き源泉の維持管理を行うと共に、機能が低下している市有源泉については改修し、機能の回復を図ります。

⑥ 地産地消の推進

1. 「世界農業遺産 大崎耕土」の副読本を活用し、家庭・地域・学校を通して、食と農に対する理解を深め、地場産給食の実施により食農教育・食文化の推進継承を図ります。

担当：農政企画課

成果指標： 学校給食における地場産野菜などの利用品目の割合

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
26.0%	22.8%	21.5%	19.4%	17.3%	□

- 所見：①評価の理由 市内で生産された野菜や米粉麺、凍り豆腐などの加工食品を学校給食に活用しました。
- ②今後の進め方 引き続き「大崎耕土」の伝統的な食文化の理解促進により、地域の食材に興味を持ってもらうとともに、事業者や生産者と連携し地産地消を推進します。

（３）【生活環境】安全・安心な暮らしを支える生活環境を確保する

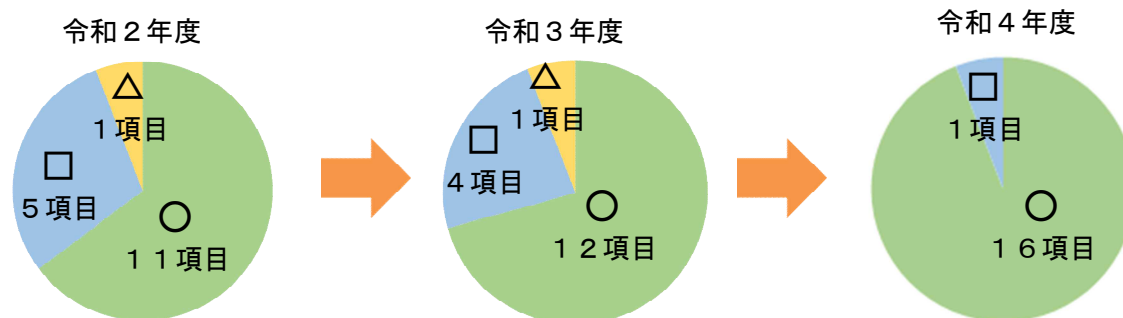
【10年後の目標】

- ・日常の生活や業務活動において、環境保全の意義や有用性が理解され、それぞれの主体的な取り組みのもと、大気汚染、水質汚濁等の環境への負荷の低減が図られている。
- ・居住環境の質の向上が図られ、誰もが良好な環境のもとで、快適性、安全性を実感しながら日々の生活を送っている。

関連するSDGs目標



【成果指標の評価】



【所見】

「生活環境」分野では、身近な環境への影響を把握するため、水質や騒音、放射能等の各種調査を実施し、それぞれの変化の状況を把握しました。騒音、振動については、引き続き管理者と情報共有し、連携した低減への取り組みが必要です。

また、衛生的な水環境の保全を図るため、個別計画に基づく排水路や下水道施設等の整備を実施しています。引き続き、計画的な整備を行い、生活基盤の環境整備と環境負荷への軽減に取り組んでいきます。

全体的に目標に向けた進展が見られましたが、更なる安全・安心へつなげていくため、安定的な取り組みを目指していきます。

① 大気環境の保全

1. 公害の発生を防止するため、酸性雨（雪）調査を継続して行い、安全で快適な生活環境を確保します。

担当：環境保全課

成果指標： 公害防止のために行う酸性雪調査測定

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回／年	1回／年	1回／年	1回／年	○

所見：①評価の理由 令和5年1月16日から2月13日に調査を行った結果、pH 6.0～6.6と前年と比較して大きな変化は確認されませんでした。

②今後の進め方 今後も推移を把握するため、調査を継続していきます。

② 水環境の保全

1. 公害の発生を防止するため、公共河川の水質検査を継続して行い、安全で快適な生活環境を確保します。

担当：環境保全課

成果指標： 水質の環境基準達成率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	61%	57%	54%	61%	○

所見：①評価の理由 市内河川の55箇所を調査した結果、前年度より3箇所多い34箇所において環境基準を達成しました。

②今後の進め方 基準を超過した箇所についても大幅な超過ではないことから、継続して推移を見守っていきます。

2. 水路や排水路を整備し、雨水や生活排水の円滑な処理と衛生的な環境整備を行います。

担当：建設課

成果指標： 排水路改良工事事業進捗率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	40.2%	43.1%	51%	54%	○

所見：①評価の理由 排水路の整備により排水能力が向上し、周辺環境の改善が図られました。

②今後の進め方 雨水や生活排水の円滑な処理と衛生的な環境整備のため、排水路整備計画に基づき、整備工事を継続実施していきます。

3. 流れが悪く滞った状態を解消するため、水路や排水路の調査及び測量・設計・工事を実施し、浸水被害を軽減します。

担当：建設課

成果指標：排水路改良工事業浸水対策事業進捗率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	66%	55%	56%	69%	○

所見：①評価の理由 排水路の整備により流れが悪く滞った状態が解消され、雨水排水の円滑な処理が行われました。

②今後の進め方 水路や排水路の流れが悪く滞った状態の解消ため、排水路整備計画に基づき、整備事業を継続実施していきます。

4. 河川環境を保全する活動を促進するため、地域住民が行う草刈りなどの河川維持管理活動を支援します。

担当：建設課・各総合支所地域振興課

所見：地域ごとに、状況に応じた支援を行いました。

5. 水道水の有効な利用を図るため、啓発活動や水環境教育を推進します。

担当：経営管理課

成果指標：水道施設見学・出前講座の参加者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	394人	30人	42人	144人	○

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、施設見学の受入れ方法を学年単位からクラス単位に見直し開催したため、参加人数の増加が見られました。

②今後の進め方 水道水の安全で安定的に供給できる仕組みに関心を持ってもらえるよう、啓発と水環境教育の推進を進めていきます。

6. 快適な生活を支えるため、水道施設の適正な管理や更新に努めて安全で良質な水道水を供給します。

担当：上水道施設課

成果指標：水道施設の耐震化率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
61%	—	45%	50%	51%	○

所見：①評価の理由 古川地域の清水浄水場逆洗水槽の耐震工事が完了しました。

②今後の進め方 施設耐震化計画に基づき、地震災害時に浄水・給水機能を確保し、水道水の安定供給を可能とする水道施設の耐震化を進めています。

7. 公共用水域の水質保全及び生活環境の改善を行い、生活環境の向上を図るため、公共下水道の整備を行います。

担当：下水道施設課

成果指標： 公共下水道区域内の汚水管渠整備率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
68.4%	63.3%	63.4%	63.7%	64.0%	○

所見：①評価の理由 汚水管渠整備を計画どおりに進捗できました。
 ②今後の進め方 水質保全及び生活環境向上のため、今後も公共下水道事業計画に基づき汚水管渠整備を継続実施しています。

8. 農業集落排水区域の水質保全及び良好な生活環境を維持するため、機能低下や劣化している農業集落排水施設の改修（更新）を行います。

担当：下水道施設課

成果指標： 農業集落排水施設の改修完了地区数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
7 地区	5 地区	5 地区	5 地区	6 地区	○

所見：①評価の理由 田尻地域で実施していた富岡地区農業集落排水施設の改修事業が完了しました。
 ②今後の進め方 水質保全及び生活環境維持のため、施設改修（更新）を引き続き実施していきます。

9. 公共用水域の水質保全及び生活環境の改善を行い、生活環境の向上を図るため、公共下水道区域及び農業集落排水区域以外の一般住宅等への公設浄化槽の整備を行います。

担当：下水道施設課

成果指標： 公設浄化槽整備率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
86%	55.3%	58.9%	62.6%	65.7%	○

所見：①評価の理由 公設浄化槽整備を計画どおりに進捗できました。
 ②今後の進め方 水質保全及び生活環境向上のため、循環型社会形成推進地域計画に基づき浄化槽整備を引き続き実施していきます。

③ 騒音，振動の低減

1. 生活環境の保全を図るため，騒音規制法の規定に基づき，道路に面する地域における自動車騒音の状況調査を行い，管理者と調査結果を情報共有し，連携して低減に努めます。

担当：環境保全課

成果指標： 自動車騒音の環境基準達成率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	93.7%	93.9%	94.2%	92.5%	○

所見：①評価の理由 法律の規定範囲となる7,988戸を調査した結果，7,391戸が基準値以下となりました。

②今後の進め方 超過についても大幅なものでなかったことから，継続して調査をしていきます。

2. 新幹線沿線地域における環境基準の達成状況を把握するため，新幹線鉄道の騒音・振動測定調査を行い，管理者と調査結果を情報共有し，連携して低減に努めます。

担当：環境保全課

成果指標： 騒音・振動・低周波音の環境基準値等

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
基準値等の範囲	騒音，低周波音 レベル超過	騒音，低周波音 レベル超過	騒音，低周波音 レベル超過	騒音，低周波音 レベル超過	□

所見：①評価の理由 4箇所において測定を実施した結果，最も高い値で，騒音は76デシベル（基準値超過），振動は59デシベル（指針値未満），低周波音は101デシベル（参照値超過）でした。

②今後の進め方 結果は管理者へ申し入れ，低減に向けた話し合いを継続していきます。

④ 地盤沈下，土壤汚染の防止と悪臭の低減

1. 公害の発生を防止するため，地盤調査を継続して行い，安全で快適な生活環境を確保します。

担当：環境保全課

成果指標： 一級水準測定の測定値

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	-26～+3 mm	-6～+2 mm	-9～+1 mm	-14～±0 mm	○

所見：①評価の理由 一級水準点 20 点，一等水準点 4 点における地盤の測量を行い，各水準点における変動の推移を確認しました。例年と同様に沈下している箇所がほとんどとなりますが，隆起している箇所も含まれています。

②今後の進め方 大きな変化は確認されませんでしたので，引き続き調査を実施していきます。

2. 悪臭により生活環境を損なうおそれがある場合は，事業所の立ち入り調査を行います。

担当：環境保全課

所見：苦情や相談をいただいた都度，現地確認を行い，原因者が特定できる場合は，改善するよう注意喚起を行いました。引き続き，速やかな対応に努めます。

3. 安全・安心な生活環境を確保するため，事業者の活動に起因する公害の発生を公害防止協定などにより抑制します。

担当：環境保全課

所見：事業者から提出された協定に基づく報告書において，生活環境等の保全状況を確認しました。事業者に定期的な報告を求めながら，公害発生防止に努めます。

⑤ 放射性物質への対応

1. 東京電力福島第一原子力発電所に由来する放射性物質による環境汚染が人の健康または生活環境に及ぼす影響を速やかに低減します。

担当：防災安全課

成果指標： 空間放射線量測定箇所数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	294 箇所	294 箇所	257 箇所	216 箇所	○

所見：①評価の理由 居住区域及び学校等の施設で空間放射線量の測定を行い，その結果を公表しました。測定箇所数は減少していますが，一部重複して測定していた施設の集約化を図ったものであり，実質的な測定実施については維持しています。

②今後の進め方 継続的に放射線量の測定・監視を行っていきます。

2. 空間放射線量測定や市民持込みによる食品等放射性物質簡易測定を継続的に実施し，測定結果を公表することにより，市民の不安解消を図ります。

担当：防災安全課

成果指標： 市民持込み食品等放射性物質簡易測定

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	76 件／年	97 件／年	87 件／年	43 件／年	○

所見：①評価の理由 年間を通じて申込を受け付け，測定結果を公表し，安全性の確保を図りました。

②今後の進め方 引き続き，市民の安全・安心を最優先に簡易測定業務に取り組んでいきます。

3. 福島第一原子力発電所の事故により、広範囲に拡散した放射性物質の状況を把握するため、側溝泥土等の放射性物質濃度測定を継続して実施します。

担当：環境保全課

所見：51箇所の検査を行い、その検査結果については、市ウェブサイト等で公表するなど、市民に情報提供を行いました。また、測定値は、国の基準値（8,000Bq/Kg）を下回っており、側溝清掃作業の安全性を確認できましたので、継続して測定していきます。

4. 福島第一原子力発電所の事故により汚染された農林業系汚染廃棄物の焼却処理に伴う焼却灰の適正な処理体制により、地域の安全・安心を確保します。

担当：環境保全課・農政企画課

成果指標： 福島第一原子力発電所の事故により汚染された農林業系汚染廃棄物の焼却処理

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
2,900 t	0 t	414 t	826 t	1,246 t	○

所見：①評価の理由 本年度の予定数量のとおり420tの処理を行い、累計で1,246tを処理いたしました。また、地域協議会へ処理状況を報告し、意見交換等を行いました。

②今後の進め方 引き続き、厳しい監視体制の下、市民の安全・安心を最優先に取り組んでいきます。

5. 一般廃棄物として市町村が処理できない、放射能濃度8,000Bq/Kgを超える廃棄物についての早期処分を国に働きかけていきます。

担当：環境保全課・農政企画課

所見：関係自治体と連携し、国への早期処分に向けた働きかけを継続していきます。

6. 児童に安全な給食を提供するため、定期的に1食あたりと食材1つあたりの放射性濃度の検査を行います。

担当：教育総務課・子育て支援課

成果指標： 暫定規制数値を超えた件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
維持	0件	0件	0件	0件	○

成果指標： 給食食材の放射性物質濃度測定結果公表割合

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	100%	100%	100%	100%	○

所見：①評価の理由 令和4年度検査実績は、食材170件（学校給食食材120件、保育所給食食材50件）、給食完成品56件（学校給食40件、保育所給食16件）、牛乳2件であり、結果は全て市ウェブサイトで公開しています。

②今後の進め方 今後も検査結果については、全て公開していきます。

(4) 【地球環境】地球に暮らす一員として行動し、 地球環境を思いやる

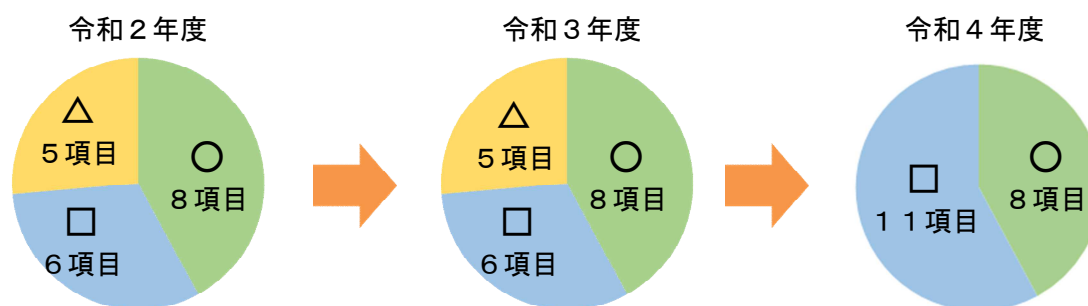
【10年後の目標】

- ・各主体において、エコなライフスタイルやワークスタイルが実践され、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量抑制による地球温暖化防止等、国際的な取り組みを通じて、地球規模の環境活動に積極的に取り組んでいる。
- ・持続的発展が可能な社会を実現するために、大量消費・大量廃棄型から、省資源・省エネルギー型のライフスタイルへの転換が図られている。
- ・廃棄物の発生は抑制され、資源の再利用や再生利用が行われ、資源循環型の社会が構築されている。

関連する SDGs 目標



【成果指標の評価】



【所見】

「地球環境」分野では、省エネルギー対策や太陽光発電などの再生可能エネルギーの利活用促進を図り、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進は、関係団体の協力により着実な取り組みができました。

気候変動への適応では、田んぼダムの取り組みが拡大するなど進捗が図られています。

引き続き、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、市民・事業者・市が目的を共有し、率先してできることから始める機運の醸成や社会全体の取り組みへ広げていく施策を展開していきます。

① 省エネルギー対策

1. 市が管理する公用車の効率的な運用を図り、エコドライブや走行距離の削減を図ります。
2. 行政の事務で排出される事務用紙、コピー用紙など資源の削減を推進することにより、環境負荷の低減を図ります。
3. 「クールチョイス」を実践し、電気・ガス・水道の使用により排出されるエネルギーを削減し、環境負荷の低減を図ります。

担当：全庁

所見：全庁的な取り組みとして、「自動車等の効率的利用」「ライフワークバランスの配慮」を重点指針に定め、所管する施設や事務事業における削減や低減に取り組みました。カーボンニュートラル社会の実現に向けて、今後、取り組みを強化していきます。

4. 防犯環境の整備と二酸化炭素排出量の削減を図るため、防犯灯のLED化を図り、犯罪のない明るく住みよい地域づくりを実現します。

担当：防災安全課

成果指標： 防犯灯（LED）設置数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
170 基／年	151 基／年	265 基／年	283 基／年	199 基／年	○

所見：①評価の理由 実績数は下がっていますが、継続して目標値を達成しています。
 ②今後の進め方 継続したLED灯の設置を行い、安全・安心な地域社会の実現を図ります。

5. 地球温暖化防止につながる環境に配慮した設備を導入した市民や事業者に対し、補助金を交付します。

担当：環境保全課

成果指標： 太陽光発電設備導入量

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
500 k w ／年	419 k w ／年	274 k w ／年	374 k w ／年	315 k w ／年	□

所見：①評価の理由 売電価格が下がったことにより、発電容量を抑え、蓄電池を併設する形態が増えています。
 ②今後の進め方 支援メニューや補助金額の検討を行います。また、技術進歩に応じた支援制度の拡充なども視野に入れ、導入の促進に努めます。

② 環境配慮型ライフスタイル等の推進

1. 地域の環境団体への支援や市民への啓発等を通じ、廃棄物の適正処理を進め、快適で住みよい生活環境を目指します。

担当：環境保全課

所見：家庭ごみの分け方・出し方カレンダーを作成しています。令和6年からは廃プラの回収も開始される予定であることから、引き続き適正処理の啓発を図るとともに、公衆衛生組合連合会等関係団体と連携しながら、生活環境の向上に努めます。

2. 環境負荷軽減に向けた低炭素社会を構築するため「環境フェア」を開催し、省エネ活動や3Rの普及・啓発を行い、自ら考えて実践する市民を増やします。

担当：環境保全課

成果指標： 環境フェア来場者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	2,500人/年	0人/年	0人/年	650人/年	□

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス対策でフリーマーケット等中止し、例年より規模を縮小して4年ぶりに開催することができました。

②今後の進め方 環境フェアは、環境問題について理解を深める大切な機会であることから、今後は工夫をしながら実施に向けて取り組みます。

3. エコアクション事業（講演やバイオゴカート試乗など）を通じて、学童期から環境活動に興味を示すよう、啓発を行います。

担当：環境保全課

成果指標： エコアクション実施数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	6校/年	4校/年	8校/年	9校/年	○

所見：①評価の理由 学校や講師の協力もあり、9校で10回実施しました。

②今後の進め方 幼少期からの環境配慮への意識づけは重要となりますので、引き続き学校や講師の協力をいただきながら、事業を実施していきます。

③ 地産地消型の再生可能エネルギーの利用促進

1. 木質チップを燃料に使用するなど、バイオマス（動植物から生まれた再利用可能な有機性の資源）を活用した地域循環型のエネルギー供給の仕組みづくりを促進します。

担当：産業商工課

成果指標： 木質チップ利用でのCO₂排出抑制効果

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
88.6万 Kg-CO ₂ /年	63.7万 Kg-CO ₂ /年	3.6万 Kg-CO ₂ /年	17.7万 Kg-CO ₂ /年	17.6万 Kg-CO ₂ /年	□

所見：①評価の理由 令和2年度中は新型コロナウイルス感染症の影響で、木質チップボイラの稼働が停止していましたが、供給業者と協議のうえ、令和3年度から冬季期間を除いて稼働しました。

②今後の進め方 木質チップの安定供給に向け、事業所等と連携し取り組んでいきます。

2. 市民から廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料にリサイクルする仕組みの構築を図り、その燃料を公用車や公共機関、公共工事等への利用を促進します。

担当：産業商工課

成果指標： 廃食用油回収量

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
8,100 L ／年	6,039 L ／年	6,327 L ／年	6,646 L ／年	6,381 L ／年	□

所見：①評価の理由 市内3ヶ所に廃食用油回収ボックスを配置し、市民回収を実施しました。令和4年度については、食用油の値上げなどの影響か回収量の減少が見られます。

②今後の進め方 廃食油回収業務を通し、燃料の利用促進・活動の浸透に向けて取り組んでいきます。

3. バイオディーゼル燃料を利用し、化石燃料由来の二酸化炭素排出抑制を図り、災害時におけるエネルギーの分散に備えます。

担当：産業商工課

所見：市の公用車のうち4台にバイオディーゼル燃料を使用しています。うち2台は災害時に物資搬送を担当する産業経済部の所有車両とし、エネルギー分散に取り組んでおります。引き続き、バイオディーゼル燃料の利用普及促進を図っていきます。

4. 再生可能エネルギー事業の可能性調査などを行う事業者を支援し、地域の実情に沿った再生可能エネルギーの普及・促進を図ります。

担当：産業商工課

成果指標： 再生可能エネルギーを導入し事業化した件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	0 件	0 件	0 件	0 件	□

所見：①評価の理由 事業者からの相談対応や情報提供等を実施しました。また、民間事業者による大崎市鳴子温泉地域高日向山地区での地熱資源量調査を実施しており、相互での情報共有を行っています。

②今後の進め方 事業者からの相談対応や情報提供等の支援を行います。

5. 本市の恵まれたエネルギー資源や自然環境を継承していくため、再生可能エネルギー利用への関心を高める取り組みを進めます。

担当：産業商工課

成果指標： 再生可能エネルギー講演会等参加者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
300 人／年	48 人／年	0 人／年	74 人／年	48 人／年	□

所見：①評価の理由 市内小学生向けに地熱発電に関する講演会を実施しました。

②今後の進め方 引き続き、再生可能エネルギーについての理解が深まる講演会を実施していきます。

6. 西地区熱回収施設等（ごみ処理施設）から出される余熱エネルギーを活用した地域振興策の普及・促進を図ります。

担当：環境保全課

所見：大崎広域西地区熱回収施設等周辺環境整備推進協議会等での検討と併せて、地域の幅広い世代の方々とワークショップを開催し、地域の魅力づくりに繋がるような話し合いを行っています。

7. 豊かな自然環境や生活環境等を保全しながら、調和のとれた再生可能エネルギーの利活用を図るための条例を制定します。

担当：環境保全課

所見：令和4年度は、大崎市自然環境等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例の適用を受けた85事業の事前協議及び届出があり、設置地域の自然環境・生活環境等の保全と再生可能エネルギー設置の調和に努めました。

④ コンパクトなまちづくりの推進

1. 各地域の商業・業務・医療・駅等の都市機能の集積が高い区域を中心に都市づくりを推進し、省資源と環境に配慮した集約型市街地の形成を図ります。

担当：都市計画課

所見：大崎市立地適正化計画に基づき、都市機能や居住の誘導を推進し、都市の低炭素化・環境負荷の小さい都市構造の形成を進めていきます。

⑤ 利用しやすい公共交通ネットワーク等の充実

1. 「通院」「通学」「買い物」等の外出をサポートする公共交通ネットワークを構築し、車社会による二酸化炭素の排出削減を図ります。

担当：まちづくり推進課

成果指標： 廃止代替バス利用者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	11.1万人	9.4万人	9.8万人	9.9万人	□

所見：①評価の理由 「通院」、「通学」、「買い物」など、利用者ニーズを踏まえた運行ルート、停留所の配置、運行時刻の調整などを行いました。

②今後の進め方 引き続き、利用者ニーズを踏まえた対応と利用しやすい公共交通に向けて、運行事業者と連携し運行するとともに、バスマップ・総合時刻表を継続して作成・配布し利用促進を図ります。

2. 中心市街地の活性化や観光振興を支える公共交通を構築し、多くの人が利用する“中心市街地循環便”を目指し、車社会による二酸化炭素の排出削減を図ります。

担当：まちづくり推進課

成果指標： 中心市街地循環便利用者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	2.9万人／年	2.4万人／年	2.4万人／年	2.4万人／年	□

- 所見：①評価の理由 市街地を循環する中心部路線として、通院や買い物利用のほか、通学利用も考慮した、運行ルート等の検討を行いました。
- ②今後の進め方 引き続き、市街地循環便として住民に利用される運行ルートの検討と住民ニーズを捉えながら、利便性と回遊性の向上に向けた取り組みを進めます。

3. 地域住民と行政の協働により、分かりやすく、利用しやすい、各地域に適した“地域内交通”を確保し整備を行い、車社会による二酸化炭素の排出削減を図ります。

担当：まちづくり推進課

成果指標： 地域内交通の運行を開始した地域の数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
7 地域	6 地域	6 地域	6 地域	6 地域	□

- 所見：①評価の理由 各地域の運営委員会が主体となり、運行事業者と行政が連携し運行を行いました。
- ②今後の進め方 引き続き、住民、運行事業者等の関係者と意見交換を行いながら、地域内公共交通を検討し、サービスの維持・向上に努めます。

⑥ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進

1. 古川リサイクルデザイン展示館の利用団体と連携を図り、様々なメニューの体験学習を実施し、環境について考え、自発的に行動する市民を増やします。

担当：環境保全課

成果指標： リサイクルデザイン展示館体験教室参加者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
1,900 人／年	1,532 人／年	299 人／年	415 人／年	528 人／年	□

- 所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響で、人数を限定しての体験教室となりましたが、時間や開催方法を工夫し、昨年度より113名の増加となりました。
- ②今後の進め方 体験教室の実施により、環境に配慮した取り組みを行う市民の増加につなげていきます。

2. ごみの分別や減量化を推進、啓発するため、「ごみ収集カレンダー」を作成し、各家庭に配布を行います。

担当：環境保全課

所見：カレンダーをより見やすい内容にし、37,000部を各世帯に配布いたしました。引き続き、公衆衛生組合連合会と連携して、適切な分別とごみ減容化の啓発に努めます。

3. 資源物は分別して、リサイクルステーションへ出すように周知徹底し、リサイクルを推進します。

担当：環境保全課

所見：公衆衛生組合連合会と連携し、適切な分別とリサイクルの推進に努めます。

4. 学校給食の「食べ残し」を減らすことが、食品ロスの低減や環境負荷の減少につながることを伝え、「食べ残し」の減量を図ります。

担当：教育総務課

成果指標： 小中学校の学校給食残食量調査結果

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
6.9%	7.7%	7.2%	9.5%	9.6%	□

所見：①評価の理由 献立の組み合わせや子どもたちの嗜好に配慮した味付けの工夫をしています。栄養士や担任による声かけや食品ロスを含めた食育に取り組んでいますが、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、対面での指導が積極的に行えなかった影響がみられ、横ばいとなっています。

②今後の進め方 食品ロスを含めた食育を継続して取り組んでいきます。

⑦ 気候変動への適応

1. 地球温暖化の影響により大規模化している台風や豪雨といった気候変動等への正しい理解と身を守るための知識や技術の習得を目的として、自主防災組織が実施主体となった防災訓練等を行います。

担当：防災安全課

成果指標： 自主防災組織による防災訓練実施回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
120回／年	50回／年	140回／年	130回／年	160回／年	○

所見：①評価の理由 初期消火訓練、避難訓練、避難所運営訓練、安否確認訓練等を行いました。

②今後の進め方 今後も防災意識の向上を図っていきます。

2. 講師を派遣し、地域ごとの洪水・土砂災害ハザードマップを活用した啓発を行い、自身が居住する地域の実情の把握と訓練をととした組織等の育成と強化を図ります。

担当：防災安全課

成果指標： 自主防災組織による防災講習実施回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
50回／年	56回／年	38回／年	30回／年	32回／年	○

所見：①評価の理由 ハザードマップの見方と活用等の講習会を実施しました。

②今後の進め方 今後も自主防災組織の育成及び活動に対する支援を行っていきます。

3. 豪雨による洪水被害を緩和するため、水田の貯水機能を活用した「田んぼダム」の取り組みを推進します。

担当：農村環境整備課

成果指標： 田んぼダム推進事業取り組み面積

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
300 ha	0 ha	0 ha	245 ha	817.2 ha	○

所見：①評価の理由 流域治水対策の一つとして、集中豪雨や台風などによる洪水被害を軽減するため、田んぼダムの取り組みを推進しています。令和4年度については、古川地域において実証実験を行ったほか、7組織で取り組みを開始し、令和3年度から合計12組織で取り組みを行いました。

②今後の進め方 田んぼダムは、流域治水対策の一つとして、集中豪雨や台風などによる洪水被害の軽減に有効であることから、引き続き拡充できるよう田んぼダムに関する情報提供を行い、実施面積の拡大を目指します。

4. 集中豪雨等による浸水被害の軽減を図るため、既設水路の浚渫(しゅんせつ)を推進し、水路の断面を最大限に利用し、十分な流量を確保します。

担当：建設課

成果指標： 緊急浚渫事業進捗率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	0%	22.5%	32%	46%	○

所見：①評価の理由 既設水路の浚渫を行い、十分な断面及び流量が確保され、排水能力が向上しました。

②今後の進め方 浸水被害軽減のため、緊急浚渫推進事業計画に基づき、水路の浚渫を行っていきます。

5. 集中豪雨等による浸水被害の軽減を図るため、内水対策として、常襲冠水箇所の排水路整備を実施します。

担当：建設課

成果指標： 排水路改良工事業浸水対策事業進捗率

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
100%	88%	55%	56%	69%	○

所見：①評価の理由 排水路の整備により流れが悪く滞った状態が解消され、排水能力が向上しました。

②今後の進め方 浸水被害軽減のため、排水路整備計画に基づき、整備工事を継続実施していきます。

6. 集中豪雨等による浸水被害の軽減を図るため、公共下水道区域において、雨水管渠(かんきょ)や雨水排水ポンプ場等の整備を行います

担当：下水道施設課

成果指標：公共下水道区域内の雨水管渠整備率

目標	令和元年度の 状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
47.1%	41.3%	41.3%	42.6%	43.5%	○

所見：①評価の理由 鹿島台地域で実施していた中央第1排水区已待田第2調整池の整備が完了しました。

②今後の進め方 浸水被害軽減のため、今後も公共下水道事業計画に基づき雨水管渠整備等を継続実施していきます。

（５）【市民参画・協働】世代を超えて環境を学び、伝える

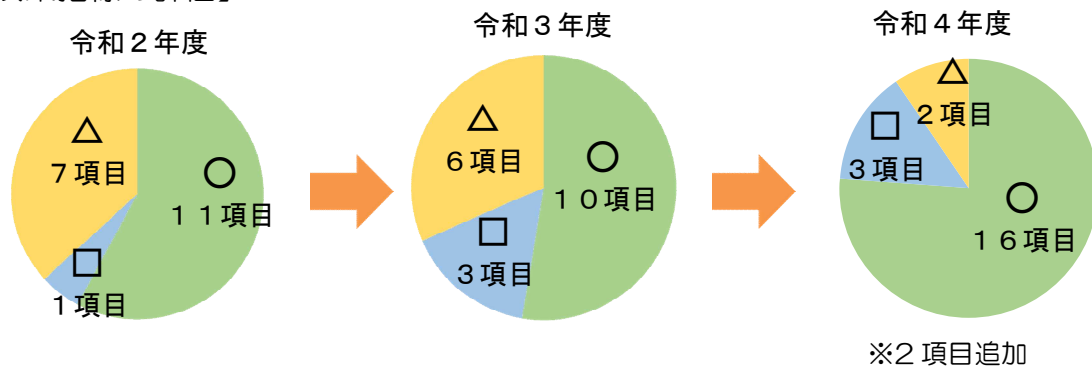
【10年後の目標】

- ・各主体が本市の環境に誇りを持ち、自らが活動に取り組み、情報を発信できる役割を担っている。
- ・各主体に加え、学校、地域団体やNPO等の各種団体を含む全ての人々が、環境保全のために必要な行動を認識し、各自が役割を担い、相互連携を図りながら、自主的かつ積極的な取り組みを推進している。

関連するSDGs目標



【成果指標の評価】



【所見】

「市民参画・協働」分野では、新型コロナウイルス感染予防対応として、事業規模の縮小や人数を制限した開催など工夫した取り組みを行ったほか、一部では行動制限緩和の動きを受け、回復傾向が見られる結果となっています。

各地域においては、感染症対策を講じながら衛生活動や美化活動に取り組んでいただきましたが、今後の課題として参加者の減少や高齢化などが挙げられておりますので、地域の皆さんと一緒に持続可能な方法等を検討してまいります。

① 環境情報の提供

1. 地球温暖化対策実行計画に基づき、温室効果ガス総排出量を抑制するため、公共施設において毎年度、光熱水量を調査し結果を公表し、「CO₂削減」への取り組みを推進しています。

担当：環境保全課

成果指標： 温室効果ガスの年間排出量

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
17,875 t-CO ₂	28,579 t-CO ₂	28,773 t-CO ₂	25,089 t-CO ₂	25,950 t-CO ₂	□

所見：①評価の理由 公共施設の光熱水量調査の結果、前年度の排出量を上回りました。

- ②今後の進め方 近年の社会情勢を踏まえ、令和4年度はより高い目標を目指して地球温暖化対策実行計画を改定しました。公共施設も含め市全体で2050年カーボンニュートラル実現に向けて、更なる削減に努めます。

② 環境イベントの開催

1. 毎年、環境フェアを開催し、省エネ活動や3Rの普及・啓発を行い、自発的に実践する市民を増やします。

担当：環境保全課

成果指標： 環境フェア来場者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	2,500 人／年	0 人／年	0 人／年	650 人／年	□

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス対策でフリーマーケット等中止し、例年より規模を縮小して4年ぶりに開催することができました。

- ②今後の進め方 環境フェアは、環境問題について理解を深める大切な機会であることから、今後は工夫をしながら実施に向けて取り組みを行います。

③ 環境教育・環境学習の推進

1. 小学生を対象としたエコアクション事業（実演やバイオゴーカート試乗など）や中学生を対象とした環境講演を継続して実施し、環境について関心を持ち、自ら環境問題について考え、省エネ活動や3Rに取り組む児童生徒を増やします。

担当：環境保全課

成果指標： エコアクション実施数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	6校／年	4校／年	8校／年	9校／年	○

所見：①評価の理由 学校や講師の協力もあり、9校で10回実施しました。
 ②今後の進め方 幼少期からの環境配慮への意識づけは重要となりますので、引き続き学校や講師の協力をいただきながら、事業を実施していきます。

2. 古川リサイクルデザイン展示館の利用団体と連携を図り、様々なメニューの体験学習を実施し、環境について考え、自発的に行動する市民を増やします。

担当：環境保全課

成果指標： リサイクルデザイン展示館体験教室参加者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
1,900人／年	1,532人／年	299人／年	415人／年	528人／年	□

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響で、人数を限定しての体験教室となりましたが、時間や開催方法を工夫し、昨年度より113名の増加となりました。
 ②今後の進め方 体験教室の実施により、環境に配慮した取り組みを行う市民の増加につなげていきます。

3. 出前講座メニューに基づき、市民が主催する学習会等に職員を講師として派遣し、協働によるまちづくりの推進を図ります。

担当：生涯学習課

成果指標： 出前講座派遣件数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
140件／年	126件／年	46件／年	57件／年	80件／年	○

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を中止する事例もありましたが、規制緩和の影響により申し込み数は年々増加しており、新型コロナウイルス流行前の開催件数に戻つつあります。
 ②今後の進め方 今後とも感染対策を図りながら事業に取り組めます。

4. 学校教育の場、地域住民の水辺に親しむ憩いの場を創出することを目的に整備された下伊場野水辺の楽校親水公園で、環境学習や自然体験活動を推進し、「子どもの水辺」再発見プロジェクトに取り組みます。

担当：松山総合支所地域振興課

所見：地元小学校生徒による鮭の生態学習や稚魚放流活動に取り組んだほか、親子カヌー教室を行いました。今後も環境学習や自然体験活動を推進し、「子どもの水辺」再発見プロジェクトに取り組みます。

④ 協働による取り組みの推進

1. 市民活動団体（NPO法人）の環境問題に対する関心の高まりから、法人設立の認証や、運営の管理を支援することにより、自立した団体による活発な公益的活動が行われるよう、側面的な支援を行います。市民活動サポートセンターと連携し活力のある団体を育成します。

担当：まちづくり推進課

成果指標： 市民活動サポートセンター来館者数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	2,586人／年	2,917人／年	3,210人／年	4,340人／年	○

所見：①評価の理由 市民活動サポートセンターの指定管理者と連携し、施設利用者の利便性向上と、団体の活動支援として、民間の助成金の活用や環境問題に取り組むNPO法人などが活動しやすいよう、側面的支援を行いました。

②今後の進め方 引き続き、市民活動サポートセンターとして、施設利用者の利便性の向上に努めながら、団体支援として各種講座を企画・開催するなど、市民・団体の学びの場の提供に努めます。

2. 緒絶川荒川清流化促進協議会が行う、緒絶川や荒川の清掃、環境整備など取り組みを推進します。

担当：環境保全課

成果指標： 緒絶川荒川清流化促進協議会清掃実施回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	2回／年	0回／年	0回／年	0回／年	△

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

②今後の進め方 今後の取り組みについて、協議会役員等と検討してまいります。

3. 地域内の市民統一清掃を行い、快適な生活環境を守り、一人ひとりの環境衛生意識の普及・向上を図ります。

担当：環境保全課・岩出山総合支所地域振興課・鳴子総合支所地域振興課

成果指標： 古川・岩出山・鳴子温泉地域市民統一清掃回数

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	2回/年	1回/年	1回/年	1回/年(古川) 1回/年(岩出山) 1回/年(鳴子)	○

所見：①評価の理由 古川・鳴子・岩出山で実施しました。新型コロナウイルスの影響で中止が続いた地域もありましたが、以前と同様に各地域において主体的に清掃活動を行い、生活環境の整備と環境衛生意識の普及・向上に努めていただきました。

②今後の進め方 今後も一体となった協働の取り組みを進めていきます。

4. すばらしい松山地域協議会が実施する「コスモスロード」へのコスモス植栽活動を支援し、通行者に癒しを提供するとともに地域づくりを推進します。

担当：松山総合支所地域振興課

成果指標： コスモスロード植栽事業

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	○

所見：①評価の理由 23団体が参加し植栽事業を実施しました。

②今後の進め方 今後も協議会と一緒に取り組みを進めていきます。

5. 松山地域で行政区ごとに実施する環境美化活動「クリーンふるさと運動」を支援し、良好な生活環境を維持します。

担当：松山総合支所地域振興課

成果指標： クリーンふるさと運動

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	2回/年	2回/年	2回/年	2回/年	○

所見：①評価の理由 各行政区において環境美化活動を実施しました。

②今後の進め方 今後も活動を支援し、良好な生活環境を維持します。

6. 不法投棄されやすい地域内林道などを公衆衛生組合連合会が主体となり巡回し、不法投棄のない地域を目指します。

担当：松山総合支所地域振興課

成果指標： ごみ不法投棄巡視

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	13回/年	10回/年	10回/年	5回/年	○

所見：①評価の理由 5月・10月の毎週木曜日に松山地域の林道を巡回し、不法投棄がされていないかを確認しました。

※10月のパトロールは、林道が通行止めになったため、中止。

- ②今後の進め方 今後は巡視の成果が上がってきていることから、巡視回数は減らしますが、不法投棄撲滅に向け取り組んでいきます。

7. 三本木地域では「ラブリバー大作戦」として、河川愛護と水防意識の高揚を図り、河川への感謝と親しみを込め、地域住民の自主参加により清掃活動を実施します。

担当：三本木総合支所地域振興課

成果指標： ラブリバー大作戦

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	0回/年	0回/年	0回/年	△

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の流行減少が見られてきたことから、規模を縮小（時間短縮かつごみ拾い程度）のうえ、3年振りの実施に向けて準備を進めましたが、悪天候のため令和4年度も中止としました。

- ②今後の進め方 今後も地域と一体となって取り組みを進めていきます。

8. 三本木地域では「クリーン大作戦」として、緑豊かな住みよい地域づくりのため、行政区の住民同士の交流連携を深めながら環境美化活動を実施します。

担当：三本木総合支所地域振興課

成果指標： クリーン大作戦

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	○

所見：①評価の理由 三本木地域内全行政区で「クリーン大作戦」として、地域内のゴミ拾いや草刈り等を実施しました。

- ②今後の進め方 今後も地域と一体となって取り組みを進めていきます。

9. 鹿島台地域では、「ごみ・ゼロー斉大作戦」として、行政区ごとに実施する環境美化活動を支援します。

担当：鹿島台総合支所地域振興課

成果指標： クリーン大作戦

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	3回/年	3回/年	3回/年	3回/年	○

所見：①評価の理由 年に3回、鹿島台地域全域でごみ・ゼロー斉大作戦を実施し、環境美化に努めました。

- ②今後の進め方 この活動が一定程度の成果を収めていることから、今後も同様の活動を継続して実施していきます。

10. すばらしい岩出山地域を創る協議会が実施する「花ロードいわでやま」への植栽活動を支援し、通行者に癒しを提供するとともに地域づくりを推進します。【追加】

担当：岩出山総合支所地域振興課

成果指標： 花ロードいわでやま植栽事業

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	○

所見：①評価の理由 約70人が参加して花苗を植栽し、約500メートルの花壇を整備しました。

②今後の進め方 今後も協議会とともに植栽事業を進めていきます。

11. 内川・ふるさと保全隊が実施する清掃活動を支援し、内川の環境美化を推進するとともに地域づくりを推進します。【追加】

担当：岩出山総合支所地域振興課

成果指標： 内川清掃活動

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	5回/年	2回/年	2回/年	3回/年	○

所見：①評価の理由 約35人が参加して内川の清掃活動を実施しました。

②今後の進め方 今後も内川・ふるさと保全隊の清掃活動を支援していきます。

12. 田尻観光協会と加護坊山沿道の清掃を実施し、環境美化の普及啓発を図ります。

担当：田尻総合支所地域振興課

成果指標： 加護坊山クリーン作戦

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	○

所見：①評価の理由 新型コロナウイルス感染症の影響で、総合支所職員のみで範囲を狭めて実施しました。

②今後の進め方 再度、市民ボランティアを募って実施したいと考えています。

13. 田尻観光協会と大貫小学校が提携して、蕪栗沼への道路沿いの清掃を実施し、環境美化の普及啓発を図ります。

担当：田尻総合支所地域振興課

成果指標： 蕪栗沼クリーン作戦

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	○

所見：①評価の理由 11月に観光協会や大貫小学校、各関係団体と一緒に清掃作業を行いました。

②今後の進め方 今後も蕪栗ぬまっくらぶの協力のもと継続していきたいと考えています。

14. 田尻地域内48衛生組合連合会と、各地域で清掃を実施し、環境美化の普及啓発を図ります。

担当：田尻総合支所地域振興課

成果指標： 地域内清掃の実施

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	○

所見：①評価の理由 各地域でお盆前に道路等の清掃を行いました。
 ②今後の進め方 今後も田尻地域衛生部の協力のもと継続していきたいと考えています。

15. 田尻地域の衛生部長等が各戸を訪問し、清掃状況等を確認し、衛生指導を行います。
 担当：田尻総合支所地域振興課

成果指標： 衛生指導の実施

目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
継続	48 組合	48 組合	48 組合	48 組合	○

所見：①評価の理由 地域の衛生部において、啓発チラシの配布を実施しました。
 ②今後の進め方 今後も田尻地域衛生部の協力のもと継続していきたいと考えています。

⑤ 環境教育を支える人材の育成と活躍促進

1. これからの地域を担う若者を育成するため、大崎市が抱える問題やプロジェクトについて、高校生と話し合い、地域の活性化に向け自由な提案を頂き、高校生が積極的に地域づくりに参加することにより、大崎市への関心度を高めます。

担当：政策課

成果指標： 高校生タウンミーティングによる意見数

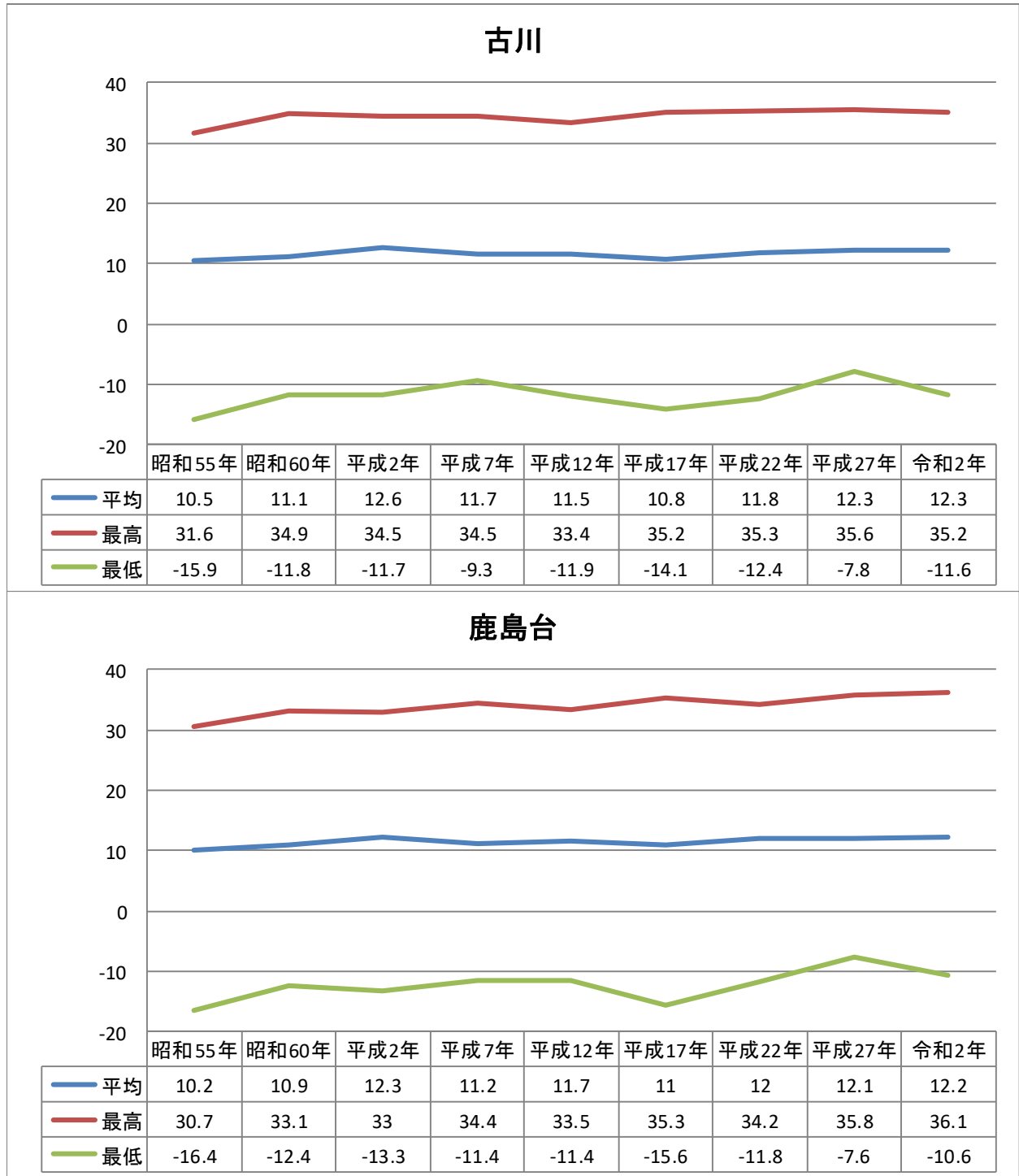
目標	令和元年度の状況	実績			評価
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
増加	18 件／年	9 件／年	0 件／年	9 件／	○

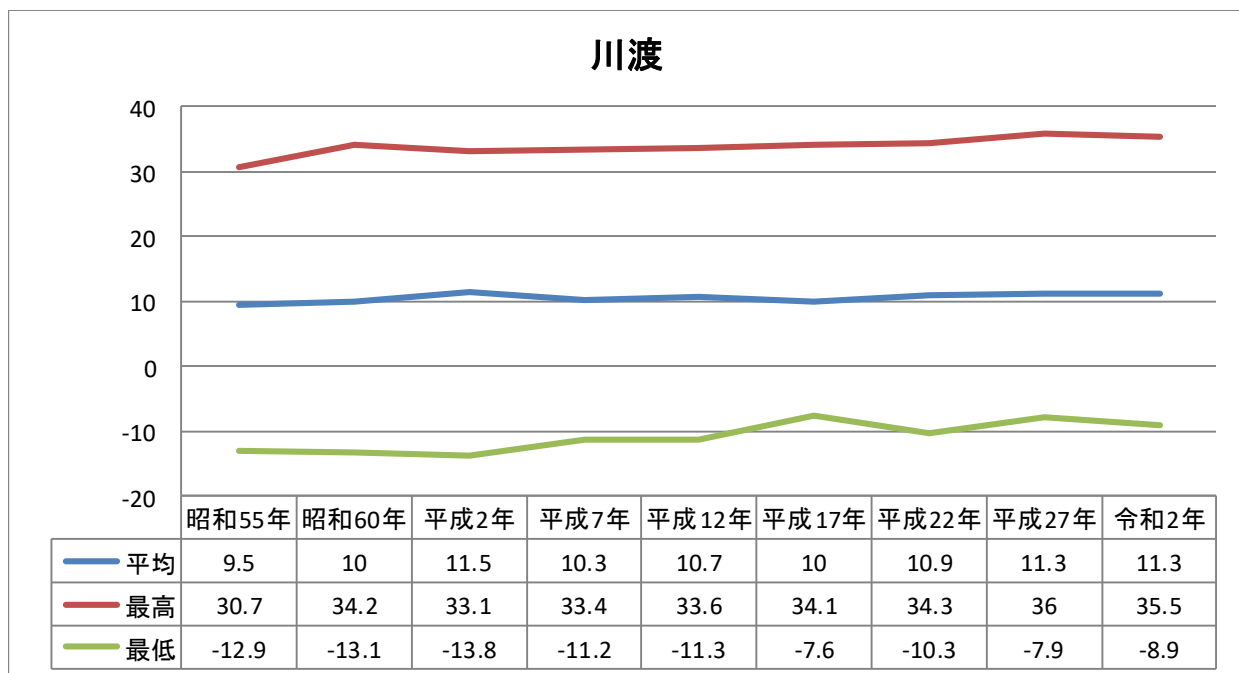
所見：①評価の理由 令和4年度はこれまで単独で開催していた「高校生タウンミーティング」を市長との意見交換を主とした「宝さがし未来トーク」との共同にて開催しました。市内9校の高校生39名により9グループに分かれて、ワークショップ形式により「公共交通を活用したおおさきの未来価値創造」をテーマとして活発な意見交換・発表がなされ、貴重な意見をいただいたところであります。
 ②今後の進め方 これまでも各年度ごとに人口減少対策や公共交通の利活用などの行政課題について若い世代からの積極的な意見を頂いていることから、これまでと同様に市内高校生を主体としたタウンミーティングを継続して開催してまいります。

参考資料

1. 気温（5年毎の平均気温，最高気温，最低気温の推移）

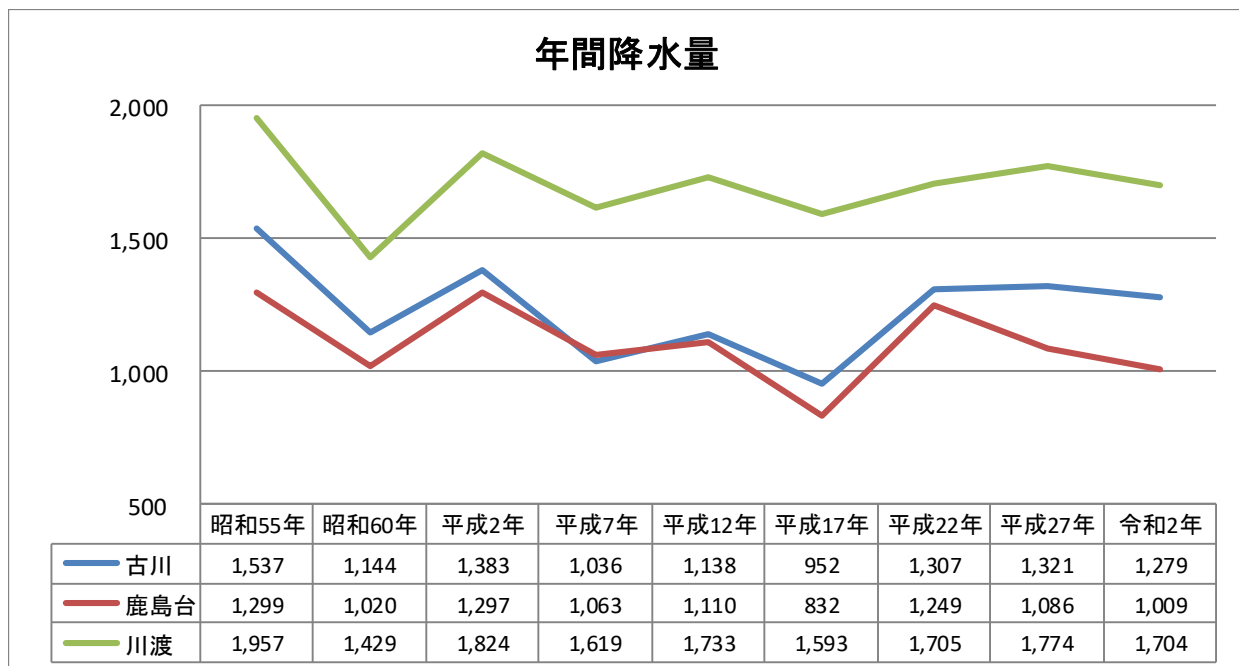
（単位：度）





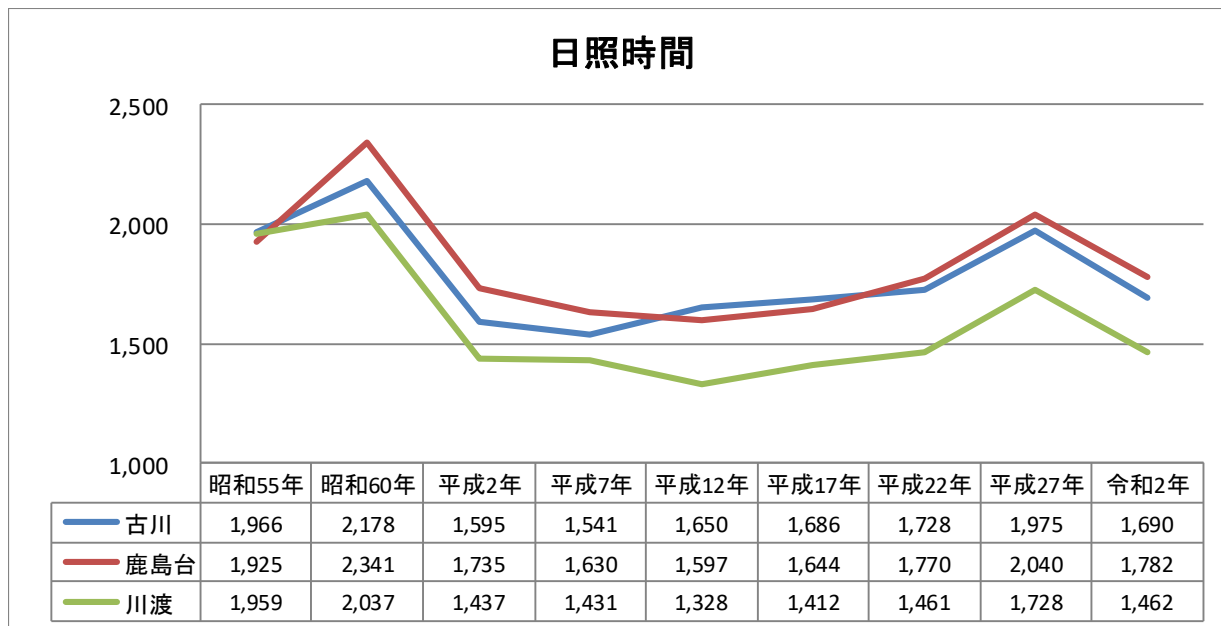
2. 降水量（5年毎の年間降水量）

（単位：ミリメートル）



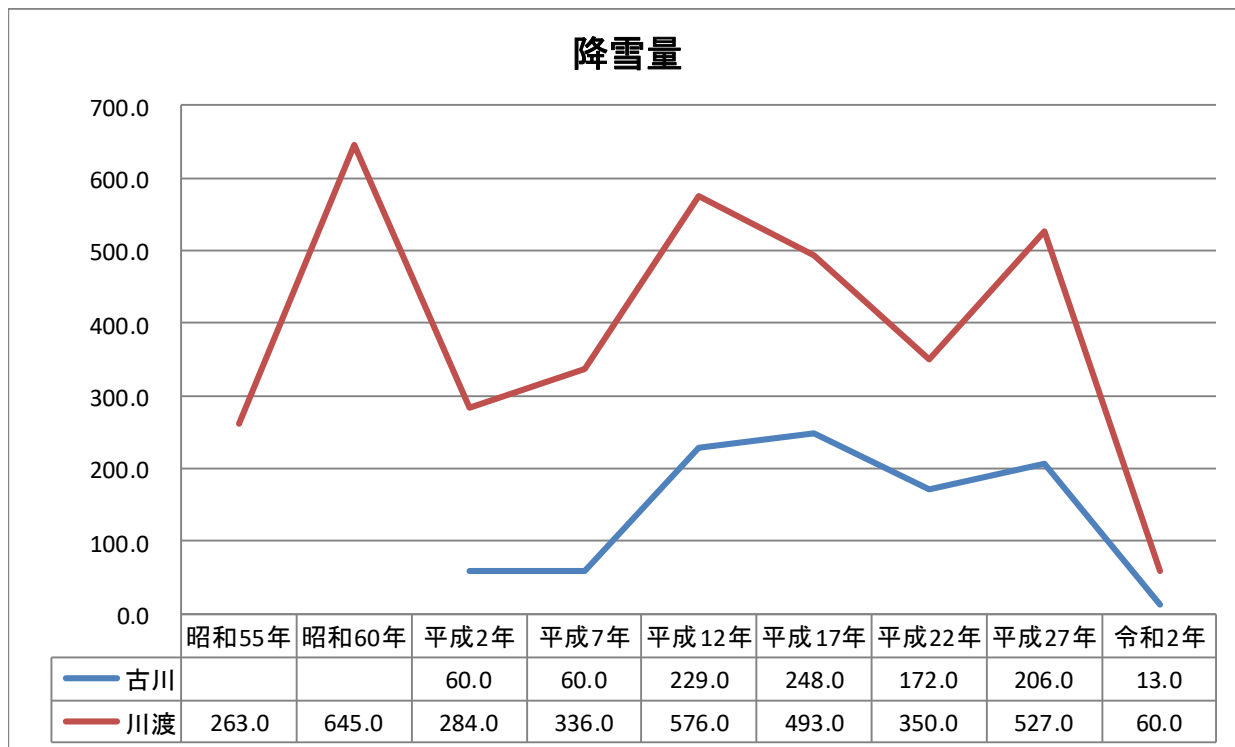
3. 日照時間（5年毎の年間日照時間）

（単位：時間）



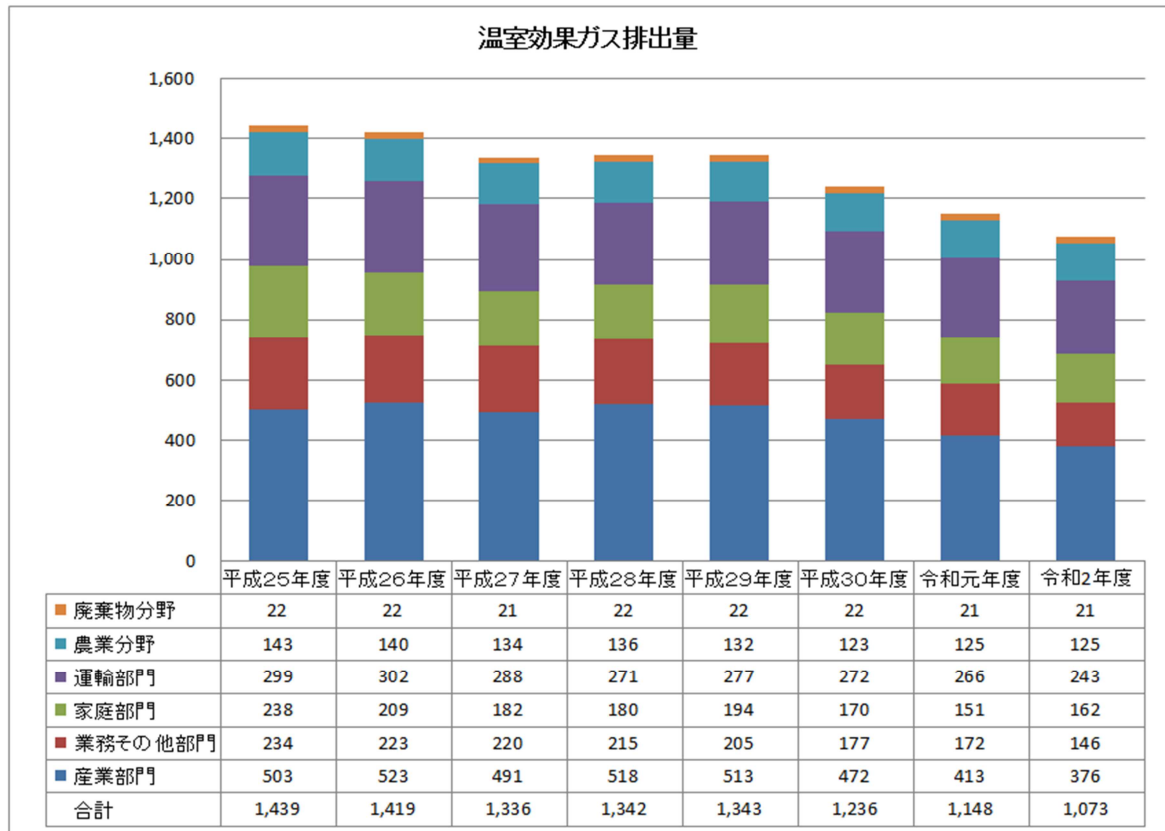
4. 降雪量（5年毎の寒候年※降雪量）

（単位：センチメートル）



5. 温室効果ガス排出量

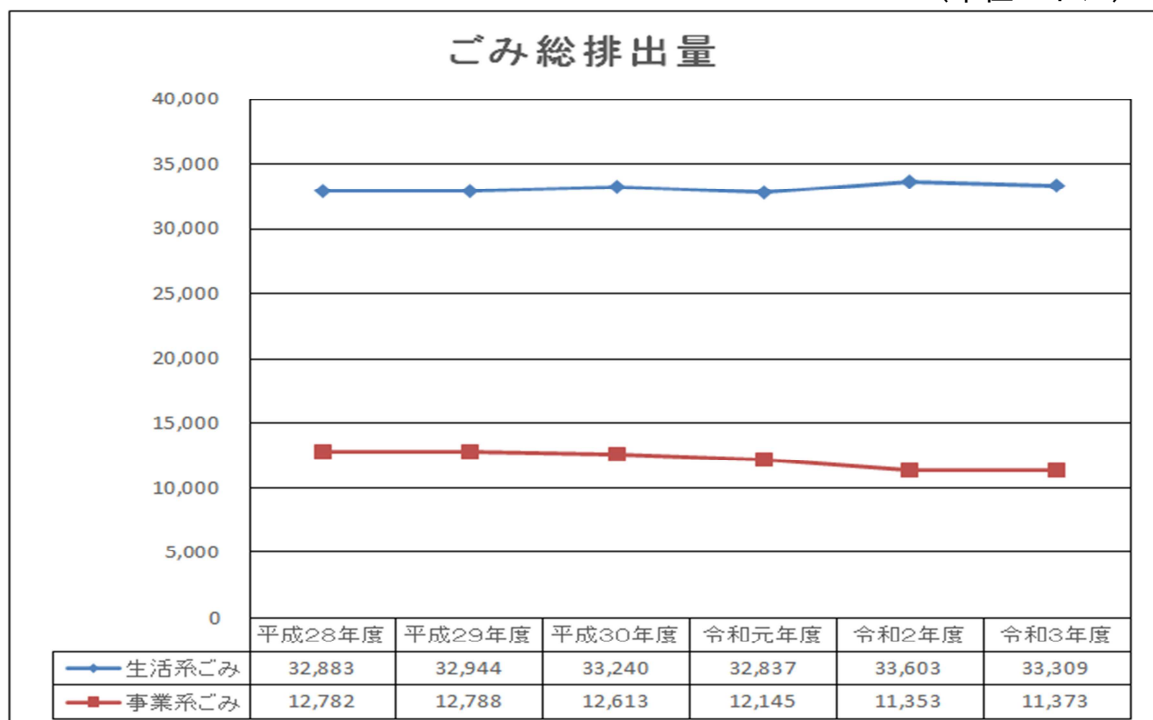
(単位：千トン)



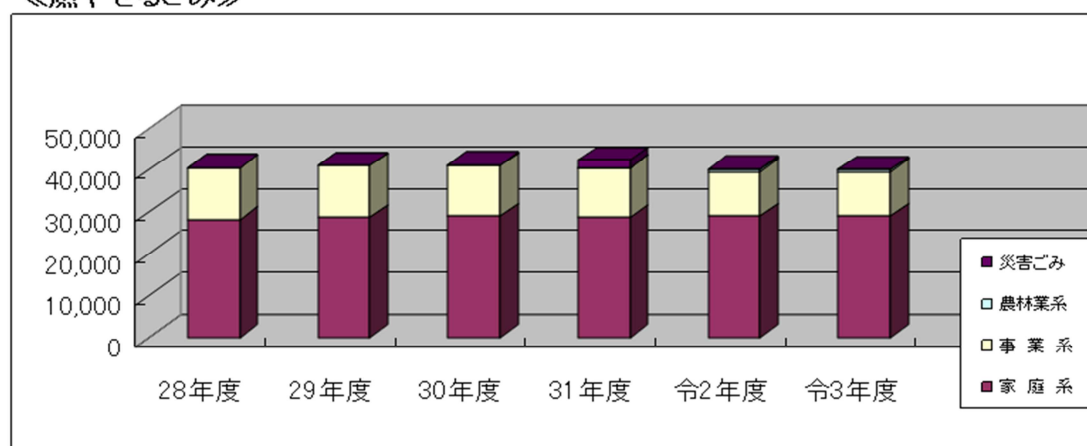
※令和3年度データ未集計

6. ごみ総排出量

(単位：トン)



《燃やせるごみ》



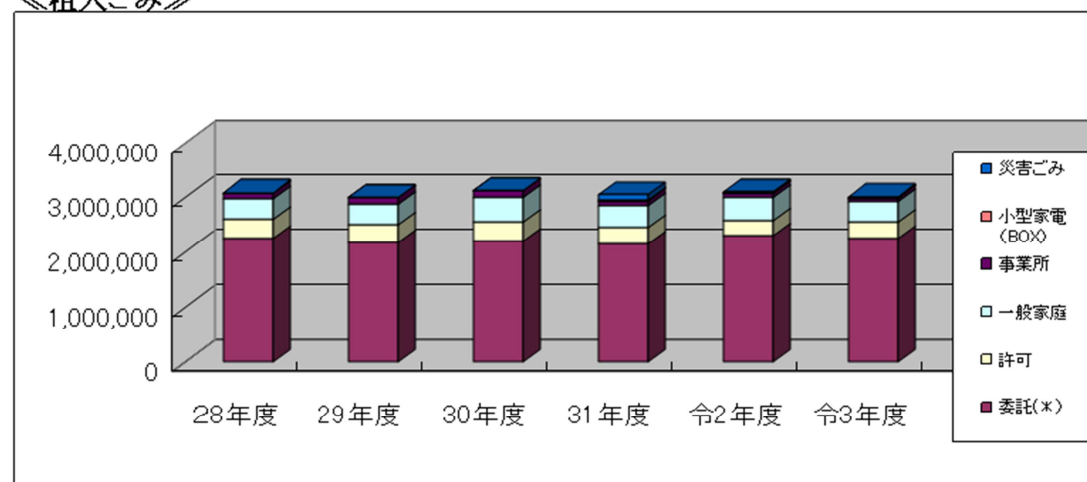
(単位: t)

	28年度	29年度	30年度	31年度	令2年度	令3年度	合計
家庭系	28,243	28,639	28,977	28,753	28,973	28,977	172,562
事業系	12,332	12,343	12,100	11,745	10,578	10,603	69,701
農林業系	0	0	41	7	415	412	874
災害ごみ	0	0	0	1,765	286	44	2,095
合計	40,574	40,982	41,118	42,269	40,252	40,036	245,232

生活系ごみ

事業系ごみ

《粗大ごみ》



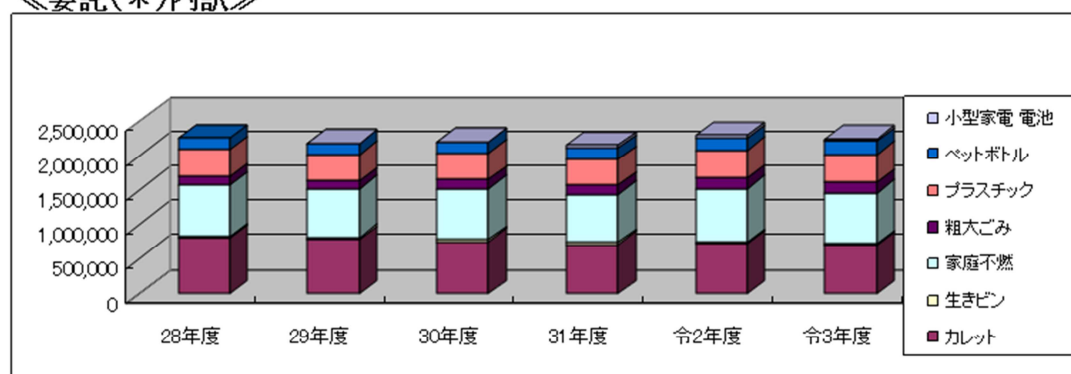
(単位: kg)

	28年度	29年度	30年度	31年度	令2年度	令3年度	合計
委託(*)	2,259,100	2,178,760	2,206,410	2,147,480	2,295,030	2,246,920	13,333,700
許可	344,010	323,950	352,590	296,400	281,920	290,790	1,889,660
一般家庭	373,180	379,050	435,530	394,200	425,060	379,840	2,386,860
事業所	106,300	123,010	119,350	97,520	80,040	67,050	593,270
小型家電 (BOX)	2,866	3,994	5,247	4,697	4,382	3,283	24,469
災害ごみ	0	0	0	116,640	1,650	23,410	141,700
合計	3,085,456	3,008,764	3,119,127	3,056,937	3,088,082	3,011,293	18,369,659

生活系ごみ

事業系ごみ

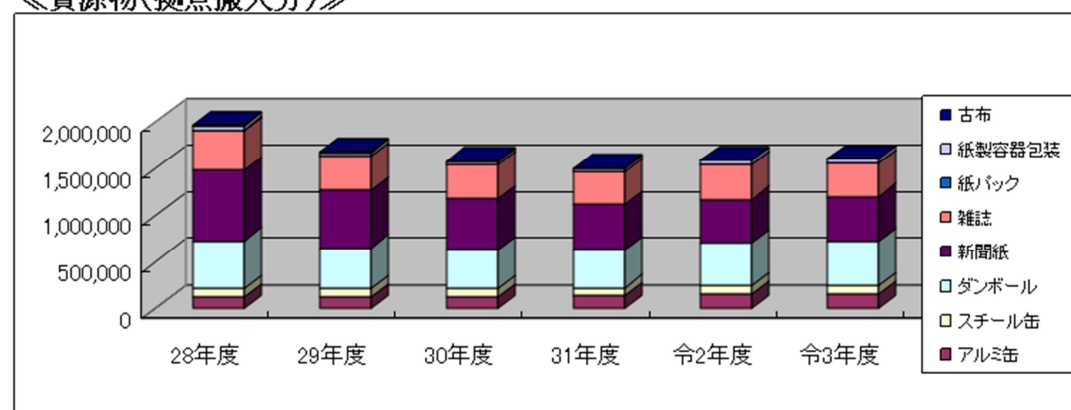
《委託(*)内訳》



(単位: kg)

	28年度	29年度	30年度	31年度	令2年度	令3年度	合計
カレット	800,420	787,140	753,410	714,570	717,220	697,920	4,470,680
生きビン	30,110	26,530	27,300	22,820	24,145	20,520	151,425
家庭不燃	740,020	707,830	736,470	702,420	781,020	738,350	4,406,110
粗大ごみ	125,250	116,320	142,390	128,850	155,680	152,100	820,590
プラスチック	387,570	375,380	378,320	379,470	400,850	407,890	2,329,480
ペットボトル	175,730	165,560	168,520	167,050	181,070	192,650	1,050,580
小型家電 電池	0	0	0	32,300	37,930	37,490	107,720
合計	2,259,100	2,178,760	2,206,410	2,147,480	2,297,915	2,246,920	13,336,585

《資源物(拠点搬入分)》

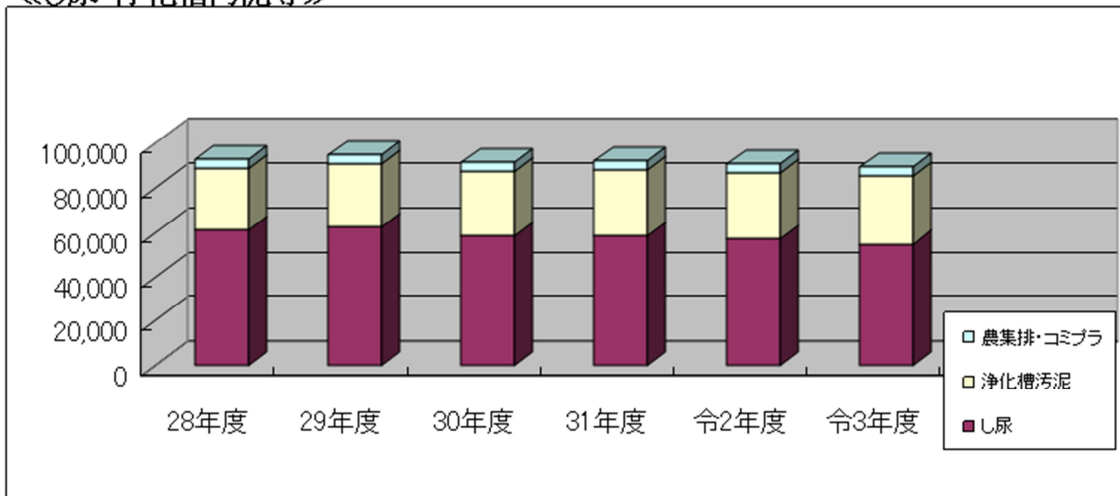


(単位: kg)

	28年度	29年度	30年度	31年度	令2年度	令3年度	合計
アルミ缶	129,415	130,825	131,910	136,550	155,630	160,030	844,360
スチール缶	91,880	90,025	87,415	88,380	92,310	88,300	538,310
ダンボール	509,223	433,475	406,404	403,960	455,152	472,426	2,680,640
新聞紙	755,037	614,414	556,208	488,440	468,324	482,290	3,364,713
雑誌	433,081	367,536	361,739	348,202	370,535	359,417	2,240,510
紙パック	3,560	3,030	2,710	2,630	3,870	3,610	19,410
紙製容器包装	45,540	37,710	36,690	37,583	43,342	45,220	246,085
古布	2,270	1,140	1,410	1,580	1,710	1,420	9,530
合計	1,970,006	1,678,155	1,584,486	1,507,325	1,590,873	1,612,713	9,943,558

生活系ごみ

《し尿・浄化槽汚泥等》



(単位: kg)

	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度	令和3年度	合計
し尿	61,038	62,544	58,303	58,250	56,979	54,770	351,884
浄化槽汚泥	27,668	28,220	28,757	29,582	29,597	30,390	174,214
農集排・ゴミプラ	3,754	3,789	3,892	3,858	4,011	3,934	23,237
合計	92,459	94,554	90,952	91,689	90,587	89,094	549,335

8. 公害苦情件数

(単位: 件)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
大気汚染	2	6	4	4	7	4
水質汚濁	11	4	8	9	10	9
土壌汚染	0	0	0	0	0	0
騒音	11	7	13	11	11	8
振動	7	7	2	1	1	2
地盤沈下	0	0	0	0	0	0
悪臭	5	15	23	14	12	9
その他	361	336	390	339	400	310
計	397	375	440	378	441	342



大崎市

Osaki City

発行年月／令和 5 年 1 0 月

編 集／大崎市市民協働推進部環境保全課

〒989-6188

宮城県大崎市古川七日町 1 番 1 号

TEL:0229-23-6074 FAX:0229-23-2427

Email: kankyo@city.osaki.miyagi.jp